



慶應義塾大学

UNICORNS



*The 72nd
WASEDA vs KEIO
Basketball Game*



早稲田大学

BIG BEARS



早慶

バスケットボール定期戦

Time Table

- 08:45~ 開場
- 09:00~ 男子Bチーム戦 (109分40)
- 10:30~ OG戦 (7分スル-4Q)
- 11:30~ OB戦 (7分スル-4Q)
- 13:00~ 開会式 (選手整列、エール交換)
- 13:40~ 女子戦 (10分4Q)
- 15:20~ 男子戦 (109分40)
- 17:00~ 閉会式 (選手整列、優勝授賞制等)





部長 大谷俊郎 慶應義塾大学 看護医療学部教授
監督 宮幸朗 慶應義塾大学
H・コーチ 阪口裕昭 慶應義塾大学 慶應義塾高等学校教員
コーチ 舟越幹洋 慶應義塾大学
A・コーチ 関淳平 慶應義塾大学
A・コーチ 鈴木惇志 慶應義塾大学



S・トレーナー 木塚孝幸 慶應義塾大学
C・トレーナー 木畑実麻 慶應義塾大学



主務 朝田祐伍 慶應義塾湘南藤沢 経済4
学生コーチ 松村直樹 慶應義塾 政治4

Portrait of 伊藤良太 (Ito Ryouta), 環境情報 4. Bio: ①G ②177 ③72 ④O ⑤1992/7/23 ⑥洛南 ⑦最後への想い! 全力でぶつけます! みなさんと一緒に若き血を!

Portrait of 吉川治瑛 (Yoshihara Tsubaki), 環境情報 4. Bio: ①G ②183 ③76 ④O ⑤1992/8/9 ⑥世田谷学園 ⑦若き血魅せます。

Portrait of 権田隆人 (Gonda Ryouto), 政治 4. Bio: ①F ②189 ③84 ④AB ⑤1992/11/30 ⑥慶應義塾 ⑦4年目の雪辱。絶対に負けられない。

Portrait of 黒木亮 (Kuroki Ryou), 環境情報 3. Bio: ①CF ②192 ③86 ④O ⑤1994/3/22 ⑥延岡学園 ⑦慶應義塾の勝利に貢献します。

Portrait of 土肥啄史 (Doi Takushi), 経済 4. Bio: ①G ②175 ③63 ④B ⑤1992/9/8 ⑥慶應義塾湘南藤沢 ⑦4年生の意地見せます。

Portrait of 中村滉平 (Nakamura Kouhei), 理工 4. Bio: ①F ②184 ③92 ④O ⑤1992/4/2 ⑥慶應義塾 ⑦リバウンドやルールズボールなどの泥臭い部分で頑張っています。

Portrait of 大元孝文 (Omoto Takafumi), 環境情報 3. Bio: ①G ②180 ③75 ④B ⑤1993/7/31 ⑥洛南 ⑦チームを勝利に導けるプレイヤーになります。

Portrait of 桑原竜馬 (Kawahara Ryouma), 経済 3. Bio: ①G ②179 ③70 ④A ⑤1993/5/20 ⑥県立厚木東 ⑦勝って若き血を歌いたい!

Portrait of 清家智 (Seike Satoshi), 経済 3. Bio: ①F ②186 ③78 ④B ⑤1993/4/26 ⑥慶應義塾 ⑦強い方が勝つんじゃない、勝った方が強いんだ。

Portrait of 福元直人 (Fukumoto Naoto), 環境情報 3. Bio: ①G ②185 ③82 ④A ⑤1993/4/10 ⑥福岡大附属大濠 ⑦三度目の正直。優勝します。

Portrait of 真木達 (Maki Tatsu), 環境情報 3. Bio: ①G ②182 ③78 ④A ⑤1993/7/27 ⑥國學院久我山 ⑦持ち味を活かし、チームの勝利に貢献します。

Portrait of 山崎健詞 (Yamazaki Kenji), 経済 3. Bio: ①G ②173 ③71 ④O ⑤1993/4/17 ⑥慶應義塾湘南藤沢 ⑦子曰く、巧言は徳を乱る。小を忍ばざれば則ち大謀を乱る。

Portrait of 中島一樹 (Nakashima Ikki), 総合政策 3. Bio: ①G ②168 ③68 ④O ⑤1993/5/1 ⑥県立高崎 ⑦チームの勝利のために尽くします!

Portrait of 金井堅介 (Kanai Kenji), 環境情報 2. Bio: ①F ②187 ③80 ④AB ⑤1994/9/2 ⑥県立横浜緑ヶ丘 ⑦逆襲。

Portrait of 金子熙 (Kaneko Hikaru), 環境情報 2. Bio: ①F ②182 ③73 ④A ⑤1994/4/28 ⑥県立鶴丸 ⑦楽を望み、苦に臨む。

Portrait of 後藤宏太 (Gotoh Kouta), 環境情報 2. Bio: ①G ②175 ③68 ④A ⑤1994/10/18 ⑥藤枝明誠 ⑦慶應に勝利を。ボールをください。点取ります。

Portrait of 西戸良 (Nishido Ryou), 総合政策 2. Bio: ①G ②178 ③73 ④O ⑤1994/7/13 ⑥洛南 ⑦「練習ハ不可能ヲ可能ニス」を体現できるよいう日々精進いたします。

Portrait of 藤井和朗 (Fujiwa Kazuo), 経済 2. Bio: ①F ②180 ③70 ④A ⑤1994/6/21 ⑥慶應義塾 ⑦速攻の先頭を走ります。

Portrait of 松岡祐介 (Matsuoka Yusuke), 経済 2. Bio: ①G ②168 ③61 ④A ⑤1994/6/17 ⑥慶應義塾湘南藤沢 ⑦自分の役割を考え、チームに貢献できるよう頑張ります。

Portrait of 山崎哲 (Yamazaki Tetsu), 環境情報 3. Bio: ①C ②193 ③88 ④B ⑤1993/8/10 ⑥県立秋田 ⑦勝ちにいきます。

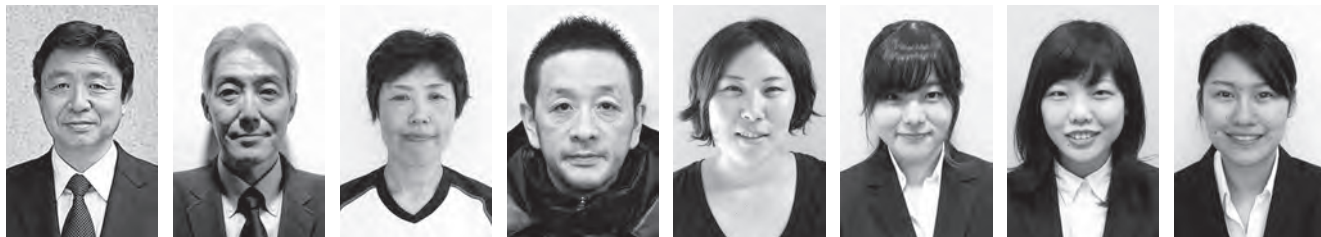
※ ①ポジション ②身長 ③体重 ④血液型 ⑤生年月日 ⑥出身校 ⑦自己アピール (選手が考案した文章をそのまま掲載)

※ ①ポジション ②身長 ③体重 ④血液型 ⑤生年月日 ⑥出身校 ⑦自己アピール (選手が考案した文章をそのまま掲載)



氏名	学部・学年	P	身長	体重	血液型	生年月日	出身校	自己アピール
八島 太郎	商 4	学生トレーナー	178	70	O	1992/ 7/ 1	慶應義塾湘南藤沢	四度目の正直!!! 記念館で最高の勝利を必ず!!!
柴田 篤志	経 済 3	学連派遣	173	65	A	1993/11/30	慶應義塾志木	3年間の屈辱を晴らします!
田辺 夏彦	経 済 3	学生コーチ	189	74	B	1993/ 9/21	慶應義塾湘南藤沢	できることは全てやりました。
角田侑大華	商 3	学生トレーナー	179	64	B	1993/ 9/30	慶應義塾	みんなで!日吉で!ウイニングパレード!!!
平山 浩樹	法 律 3	副務	180	70	B	1993/ 6/ 2	都立西	三度目の正直。
金子 育史	法 律 2	志木高コーチ	181	73	AB	1995/ 2/ 2	慶應義塾志木	慶應を下から支えます。
大村 航生	環境情報 1	G	168	58	B	1995/ 8/20	立正	挑戦!!
木村 能生	環境情報 1	CF	192	81	O	1996/ 3/11	東山	がむしゃらにプレーして、部内が活気付くように努力して行きたいです。
堂本阿斗	商 1	F	187	83	B	1995/ 8/18	慶應義塾	真剣勝負。そして勝利。
トカチヨフサワ	環境情報 1	CF	192	80	A	1995/10/14	國學院久我山	チームが一回でも多く攻められるようにリバウンドを死ぬ気で取ります。
服部信太郎	商 1	F	185	78	A	1994/ 6/ 3	巣鴨	チームを盛り上げて勝利に貢献します!
林 源	経 済 1	塾高コーチ	173	63	O	1995/ 7/ 7	慶應義塾	伝統の一戦、自分の役割果たします。
原 義裕	政 治 1	G	180	77	B	1995/ 7/24	慶應義塾湘南藤沢	チームの勝利に貢献するために役割を果たします!
山本 晴太	法 律 1	志木高コーチ	175	68	A	1995/10/ 2	慶應義塾志木	自分の役割をしっかりと考え、チームに貢献できるよう頑張ります。





部長 監督 ヘッドコーチ コンディショニングコーチ チームドクター 主務 副務 女子高コーチ


大谷 俊郎 関 雅之 岩崎 友子 木塚 孝幸 伊藤 恵梨 吉次真秀子 周東 彩菜 瀧本 有加

慶應義塾大学 慶應義塾大学 日本体育大学 慶應義塾大学 高知大学 慶應義塾湘南藤沢 都立日比谷 慶應義塾女子



たまはし みさき
玉橋 美咲
商 4

① G ② 158 ③ A
④ 1992/7/19
⑤ 県立三条
⑥ 本気、やる気、元気



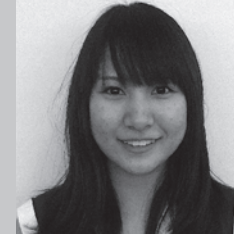
かるべ ようこ
軽部 陽子
政治 4

① G ② 158 ③ B
④ 1992/11/23
⑤ 県立柏陽
⑥ 勝ち気、負けん気、攻め気



おおoura ゆりか
大浦 由梨佳
商 4

① C ② 165 ③ A
④ 1992/7/22
⑤ 大妻多摩
⑥ 根気、強気、活気



とらいわ りか
虎岩 里佳
商 3

① F ② 160 ③ AB
④ 1993/8/18
⑤ 慶應義塾女子
⑥ ベストを尽くします。



さかい あや
酒井 亜弥
看護 3

① F ② 160 ③ O
④ 1992/12/20
⑤ 愛知淑徳
⑥ 思いっきりぶつかっていきます！



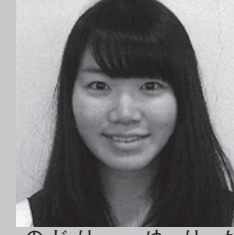
えんどう まおか
遠藤 真央香
理工 3

① F ② 160 ③ AB
④ 1994/2/26
⑤ 県立横浜平沼
⑥ 一瞬にすべてを！



しゅうとう あやな
周東 彩菜
文 3

① G ② 158 ③ A
④ 1993/5/10
⑤ 都立日比谷
⑥ できることを精一杯頑張ります。



のじり ゆりか
野尻 友里香
経済 3

① G ② 158 ③ A
④ 1994/3/5
⑤ 慶應義塾女子
⑥ 一生懸命頑張ります。



なかむら みさと
中村 実里
文 2

① F ② 168 ③ A
④ 1994/1/27
⑤ 八雲学園
⑥ 挑戦する気持ちを持ち、最後まで楽しんでプレーしたいと思います。




いしはら さおり
石原 早織
経済 2

① C ② 163 ③ A
④ 1994/4/18
⑤ 都立日比谷
⑥ 昨年とは違った自分を見せるため、できる限りを尽くしてプレーします。



しみず あさこ
清水 麻子
政治 2

① F ② 165 ③ AB
④ 1994/7/31
⑤ 慶應義塾女子
⑥ 練習の成果をしっかりと出して、自分の役割を果たします。



みつだ みなみ
光田 美波
政治 1

① F ② 164 ③ A
④ 1995/9/17
⑤ 県立岡山朝日
⑥ 少しでもチームに貢献できるように頑張ります！



かめだ はづき
亀田 葉月
文 1

① G ② 160 ③ O
④ 1995/8/8
⑤ 雙葉
⑥ 精一杯頑張ります！



すずき はんな
鈴木 帆奈
文 1

① F ② 160 ③ O
④ 1995/5/30
⑤ 都立戸山
⑥ とにかく一生懸命頑張りたいです！



※ ①ポジション ②身長 ③血液型 ④生年月日 ⑤出身校 ⑥自己アピール (選手が考案した文章をそのまま掲載)

※ ①ポジション ②身長 ③血液型 ④生年月日 ⑤出身校 ⑥自己アピール (選手が考案した文章をそのまま掲載)

殊

勝

慶應

2013年シーズンの本塾は、チームとしての成長が見られた1年であった。

トナメントではベスト8 決めて東海に負けたものの接戦を繰り広げ、その後の順位決定戦で勝利を重ね10位となる。2部リーグで迎えた秋季リーグ戦は、一つずつ勝利を積み重ね、17勝1敗と優勝。入れ替え戦でも、1部の中央大学に持ち味であるディフェンスを武器に立ち向かい、2連勝を記録。悲願の1部復帰を果たした。

だが、6月の慶早戦では、3Qまでリードするものの、4Qに大量失点を許し惜しくも敗戦。慶早戦に関しては3

集大成

今年のチームを語るのに、欠かせないのが本塾の「ゴッド」と呼ばれる4年生だ。

まずは、「本塾のゴッド」伊藤良太。入学してから長らく本塾の絶対的なエースガードとして君臨し、昨季の秋のリーグ戦では、2部得点王・スティール王の二冠を達成し



4年・伊藤良太

連敗、つまり今年の最上級生は、未だ慶早戦優勝を1度も成し遂げていない。だからこそ、今年の彼らは何よりも、慶

早戦での勝利を渴望している。そして、今年のスローガンは「殊勝」。これは、「バスケットボールに真摯に取り組み「人々に感動を与えるチームを目指し」、かつ「勝利を求める」ということを意図している。本塾のホームとなる記念館を感動の渦に巻き込むべく、勝利を目指していく所存である。

ここで、「絶対に負けられない戦い」が遂に幕を開ける。やられたらやり返す、倍返しだ!!

た頼れる主将である。正確無比なシュート、果敢なドライブ、執拗なディフェンスはチームメイトも口を揃えて

「完成形」と称するほどまで成長した。今シーズンは2番にコンバートされ、より一層得点に期待がかかる。言うまでもなく彼が本塾の勝敗を握

り、勝利の2文字を与えてくれるだろう。

その伊藤と共に、副将としてチームを牽引してくれるのが「本塾のウルヴァリン」吉川治瑛だ。普段は陽気で楽しい性格だが、最上級生の自覚が芽生えた彼はコートに入ると二変し、厳しい面持ちで常に周りに声をかけ、チームを鼓舞している。得意の鋭いドライブは健在で、六大学リーグでは2分間で11得点するという驚異的な得点力を見せつけた。早稲田のディフェンスは、彼によって崩壊すること間違いなし!

そして、Mr.ペリメーターの名を欲しいがままにしている「本塾の萬屋」、権田隆人。190センチから放たれるフレイダウェイジャンパーは、まさにアンストッパー。

昨年年度までの2年間、主力として活躍してきた3年生。特に昨シーズンの偉業は、彼らなしでは考えられなかっただろう。今年は更に上級生としての自覚も加わり、練習中

から「時には4年生をも上回る気迫」を見せている。そんな3年生には1年時より試合に活躍してきた、言わずと知れた本塾の「ファンタスティック4」に加え、成長著しいメンバ―が揃う。一人目は、「本塾の岡本太

加えてビックマンながらフットワークが巧みで、課題であったディフェンスを克服しつつあることから、今シーズンから1番として起用されることもあり、ユーティリティープレイヤーとして最上級生ながら未だに進化し続けている。

その権田の高校時代相手だった「本塾のグリズリー」、中村滉平も注目だ。今シーズンから自らマウスピースを取り入れたトレーニングを行うことで、恵まれた体により一層磨きがかかった。本塾の代名詞であるディフェンス・リバウンド・ルーズボールを貪欲にこなす彼は、本塾の危機を必ず救ってくれるだろう。

最後に「本塾のフェニックス」「土肥啄史を紹介しよう。腰の怪我から完全復活を遂げた。得意のアウトサイドシュートとフローターシュートで試合の流れを変える。

彼らが入学してから一度も勝利をあげていない慶早戦。今までの雪辱を果たし、優勝を勝ち取ってくれるであろう。

豊富なタレント

「大元孝文だ。彼は普段根暗な性格で有名だが、バスケットとなれば話は別。鋭いドライブからのダンクシュート、クイックリリースから放たれる3ポイント、まさに「芸術は爆発だ」という言葉そのままである。昨年からのディフェンサーとしての自覚も芽生え、天性の瞬発力を活かしたスティールは相手を絶望へと陥れる。彼も間違いなく本塾の勝敗を握っている一人であり、エースとしての真

価が問われるであろう。二人目は、「本塾のアイアンマン」福元直人だ。昨年までは伊藤のバックアップとして活躍していたのが記憶に新しいが、今シーズンは練習中から激しく激を飛ばし、正司令塔としての自覚を持ち始めた。必殺技は、強靱な肉体にそぐわない巧みなボールハンドリングから繰り出すキラークロスオーバー。加えて相手を欺くノールックパスで、本塾を勝利へと導く。



3年・大元孝文



3年・黒木 亮

また、山崎哲は未だ成長し

続けており、シーズンインから意欲的にトレーニングに励んだことから、課題であったフィジカル面を克服することに成功した。大きな手を活かしたオフエンスリバウンドには、目を見張るものがある。

桑原竜馬は、過去2年間メガホンで応援する日々を送っていたが、今シーズンからプレイタイムを奪取。冷静に決めてくる3ポイントと闘争心溢れるディフェンスで貢献する姿は、まさに「塾生の鑑」そのもの。

清家智は、コートを縦横無尽に駆けまわり、ガッツ溢れるゴール下を決める「フィニッシュ界の重鎮」である。そして最後に二人の司令塔を紹介したい。淡々とボールを運んで味方にパスを供給し、落ち着いたゲームメイクをする、いわゆる「オールドスタイルPG」山崎健詞。

大木のような体幹を活かしたアグレッシブなドライブインでディフェンスをかき回し、味方にアシストする、いわゆる「アメリカンスタイルPG」中島一樹。

タレントが豊富な3年生。彼らが各々に与えられた役割を全うすることで、本塾が勝

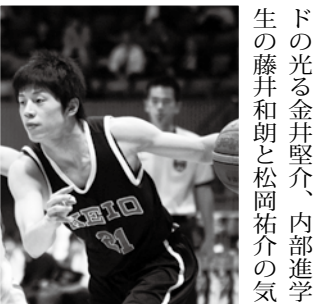
飛躍の年

今シーズンの鍵となるのは、2年生の成長及びチームへの貢献であるの言うまでもない。そこで飽くなき努力を続けている、本塾の「スプラッシュブレイザーズ」と呼ばれる二人を紹介しよう。

まずは、「本塾のスポンジボブ」西戸良だ。彼は昨シーズン、ルーキーながらスタメンに大抜擢され、1部復帰に大きく貢献した。高い運動能力とバスケットボールIQを合わせ持つため、スポンジのように様々なことを吸収し、現在も右肩上がりに成長し続けている。超速リリースからのジャンプシュートはもちろん、相手ビッグマンを欺くティアドロップは必見だ。

そしてもう一人は、「本塾のシルク」後藤宏太。チーム1のシュート力を誇り、今シーズンから3ポイントシューターとしての地位を確立した。「隙あらば」シュートを狙い、リングに当たることなくネットを揺らすさまは、まさに「シルク」そのものである。一旦火がついた2人を止めるのに、早稲田は途轍もない努力を費やすことになるだろう。

また、ディフェンスをえぐるようなドライブが持ち味の金子熙、オフエンスリバウンドの光る金井堅介、内部進学生の藤井和朗と松岡祐介の気



2年・西戸 良

利に近づくことは間違いな

迫溢れるディフェンスにも

4月から新しい仲間として加わった6人の1年生。それぞれバックグラウンドは異なるものの、高い志を持って入部した彼らがチームにもたらす勢いは何物にも代えがたい力である。その中でもすでに戦力として活躍している、本塾の日本アルプスと呼ばれる3人を紹介したい。

一人目は、「本塾のホワイトマンバ」トカチヨフ・サワ。ウクライナ人の血が通っている彼は、気持ちを全面に押し出したリバウンドとディフェンスが持ち味であり、オフエンスではディフェンスの真上でアリュウブを叩き込むエンターティナーだ。

二人目は、「本塾のあめんぼ」木村能生だ。日本人離れした長い手足を活かしたリバウンドはもちろん、軽々と決めるダンクからは目が離せないだろう。

そして三人目は「本塾の陸の王者」堂本阿斗ディーン。幼稚舎から今日まで慶應義塾という生粋の内部進学生である彼は、ルーキーながら誰よりも慶早戦の重みを理解しているかもしれない。巧みなスamppワークからの多彩なフィニッシュにディフェンスは翻弄されること間違いなしである。

長らく遠ざかっている慶早戦優勝。伝統の堅守速攻、全員バスケットで4年ぶりの優勝を今年に。人事を尽くして天命を待つ。

この一瞬を、全力で

昨年度本塾は、チームスローガン「一意専心」を掲げ、三部復帰を目指して日々練習に励んだ。

秋のリーグ戦では、グループ一位通過・入れ替え戦まで駒を進めるも勝利を掴むことができず、四部残留という悔しい結果であった。

しかし、今年こそ三部復帰を果たすためスローガン「Focus on this moment」の下新体制にて、体作りからの見直し・チーム全体の走力底上げのために地道なトレーニングを積み重ねている。

本塾らしい「走るバスケット」に更に磨きをかけ、チーム一丸となって戦う姿をとくどご覧あれ!

チームの大黒柱

それではここから、今年度チームを牽引する四年生を紹介しよう。

本塾の頼れる主将#4玉橋美咲は、高い精度を誇るシュートと強靱な体で、攻守においてチームの要になること間違いない。足首の怪我と戦いながらも大好きなバスケットに真摯に向き合い努力する姿に、



主将 玉橋美咲 (#4)



副将 軽部陽子 (#5)

チーム全員が絶対的な信頼を寄せる。一年時から試合に出場してきた彼女が、最後の慶早戦にかける想いは格別である。

副将である#5軽部陽子。人当たりの良い彼女は、チームを明るくするムードメーカーである。コートの上では最大の武器ともいえるスピードを生かし、速攻の起点となる。ボールに対する鋭い嗅覚で、虎視眈々とインターセプトを狙う。彼女の絶対に譲れない3Pシューターとしての活躍にも期待!

#6大浦由梨佳は、膝の怪我に悩まされながらも精神面・技術面でチームメイトを支え続けてきた縁の下の力持ち。妥協することなく自分を高めてきた彼女だからこそ、怪我のブランクを乗り越えた今がある! 鋼のボディから繰り出される巧みなフックシュートは、ディフェンスの意表を突き本塾に得点をもたらしてくれているだろう。

溢れる個性

次に、チームを支える三年生を紹介しよう。

チームの元氣印、#7虎岩里佳。彼女の高い運動能力から生まれる豊富なシュートパリエーションを武器にし、いかに得点を伸ばせるかがチームの勝利の鍵となる。特に速いシュートモーションから放たれるジャンプシュートは、必見である。

情熱の女、#8酒井亜弥。チーム一熱いハートの持ち主である彼女は、得意とする鋭いカットインや激しいディフェンスで攻守においても、またメンタル面においてもチームを

奮い立たせる。速攻の先頭を走り抜く走力は、早い試合展開の中でもチームを引っ張る。クールで冷静沈着な#9遠藤真央香。軽快なフットワークから繰り出されるドライブの切れ味は、抜群だ。卓越したボールハンドリングで、相手のプレッシャーディフェンスにも怯まない。彼女のキュートなボイスは、チームメイトを励ます糧になっている。

驚異の脚力を持つ#10周東彩葉。副務として冷静に仕事をこなす反面、足元に入り込み相手のミスを誘う激しいプレッシャーディフェンスと、ボールを必死に追う姿は勇猛果敢である。相手のガードもタジタジになること、間違いない。

センスの光る頭脳派プレイヤー、#11野尻友里香。落ち着いてチームを操る司令塔である彼女の持ち味は、何と言っても味方を活かす華麗なアシストパスである。その視野の広さからいくつものパスコースを狙いながら、自身も高確率のシュートで得点を取りに行く。

今年度主務を務める吉次真秀子は、癒しをもたらす本塾のエンジェルだ。愛嬌ある笑顔を浮かべながら選手のテピングから部の実務まで、仕事をテキパキこなす姿に選手一同心底惚れ込んでいる。ここからは、下級生ながらもチームの重要な戦力である二年生を紹介する。

洗練されたしなやかなプレーで、チームを引っ張る#12中村実里。安定した3Pは、幾多の場面でチームを救ってきた。チーム随一のバスケット歴を誇る彼女は、その経験を活かして下級生ながらチームの大黒柱を担う存在である。彼女のプレーから目が離せない!

チームのお笑い担当、#13石原早織。普段は芸人顔負け

のパフォーマンスを披露し、チームに爆笑をもたらすが、コートに立つと誰よりも走り、そして飛ぶ! 彼女の高い身体能力から生まれるリバウンドは、身長差をものもしない。

初の慶早戦に挑む、#14清水麻子。昨年の夏、一足遅れての入部となった彼女だが黙々と努力を重ね、今やチームに必要不可欠な存在となった。名前の通り清い心を持ちながら、勝負所で強さを見せる。昨年は観客席から見ていた慶早戦に、今年はチームの一員としてコートに立つ。

美しすぎる女子高のコーチ、瀧本有加。忙しい日々を送る中、合間を縫って練習に駆けつけてくれる彼女は、豊富な知識と彼女自身選手であった経験からチームメイトにアドバイスを送り、チームを支えてくれている。

そして、今やチームに欠かせない存在となったのが、今年度から新たに仲間となった一年生だ。これまでにない旋風を巻き起こす期待の新戦力であり、初の慶早戦に対する緊張感さえも力に変えて伸び伸びと戦う。若さ溢れる彼女たちが、チームの秘密兵器として活躍する姿から目が離せない!

今年度のチームは、人数も少なく、身体も大きくない。しかし、一人一人が持つバスケットに対する情熱ほどのチームよりも熱い。格上の相手に対しては怯むことなく立ち向かう姿は、観客を魅了するだろう。この慶早戦は、これまで積み重ねてきた本塾ならではの堅実なバスケットが、強豪早稲田相手にどれだけ通用するか?

新体制となり昨年度とは一味違う、本塾の挑戦の場である。チャレンジャーとしてコートに立つ選手たちの勇姿を、どうか見届けて欲しい。

——宮幸さんと倉石さんは、大学時代にご関係があったそうでしょうか？

宮幸 私は大学を5年間やり、その最後の年、倉石さんが1年下でした。それまでの4年間は早稲田に負け続け、最後の5年目でやっと1勝できました。倉石さんはもちろんスーパースターで、ゴール下がすごく強くて誰も抑えられないという感じでした。しかし、私が3年生の時、倉石さんがフォワードから1番に変わったのです。1番でボールを運ぶようになってくれて「良かったな！」と思いましたね。そのおかげで、5年目の早慶戦に勝てたのです。

倉石 慶應は、その当時フルコートディフェンスだったので、「ボール運びばかりしていた」という感じでした。1・2年の頃はフォワードで、得点王などを取らせて頂きましたが、最後の年は、「ガードでボールをいっぱいとられた」というイメージで「嫌なチームだな！」という事と、「慶應って、なんでこんなにしつこいチームなんだ？」という印象でした。

——今度は、監督として対戦することになりますか？

宮幸 早慶戦は学生の頃に負け続けましたし、やはり早稲田に勝てれば「そこそこのチームになれるのかな？」とずっと思っていたので、「打倒早稲田」ということで。

今年は、珍しくリーグが逆転して早稲田が2部になってしまいましたが、常にそういうことは関係なく、「ライバルとして、何とかして勝ちたい」と思っ

ています。学生の頃も、同じような感じでしたね。

倉石 ライバルというイメージはありますが、逆に言うと「一番仲がいいのかな？」とも思うので、両校が切磋琢磨していくのが一番良いです。ときどき“スーパースターみたいな選手”が出てくるくらいで、現実には中心選手になってくれる選手は、なかなかいない訳です。

本来ならば、両チームが“金の卵”になるような選手をいっぱい抱え、「日本のバスケットボールの将来を明るくする」というのが、早慶として一番好ましいことだと思います。しかし、今はそういうわけにいかないのが現状です。

両校が、ともに「リーダーシップを発揮してリーグを盛り上げる」ことによって、関東のリーグも盛り上がると思いますし、おそらくファンもそれを期待していると思うので。それが、「早慶に課せられた責務かな？」とも思っています。

——シーズン始まったばかりですが、新1年生に関してはいかがでしょうか？

倉石 1年生がいなくて、早稲田はゲームにならないですよ。選手がいなくて、これが現実ですね。「六大学戦から1年生を使ってすごいな！」と周りに思われているかもしれませんが、そうではなくて、1年生がいなくてゲームになりません。

1年生は、体格に恵まれていませんが、慣れてきたら、大学の世界でもある程度は機能して、回ってくれるのではないかと考えています。

飯野 みんな個人のスキルとかはあるので、あとはこれから“早稲田のシステム”をしっかり理解してやっていけば、きちんと戦力になる選手たちだと思っています。

宮幸 私は、まだ練習もあまり見ていなくて、話だけしか聞いていないので、、、

阪口 私自身が、ずっと高校の世界で生きてきた人間なので、私も「まず大学に慣れなくては！」と思っています。1年生に関してはまだ体が高校生なので、今大学生と一緒にやっても吹き飛ばされてしまう。これから、しっかりトレーニングをやっても

raitaiです。

——去年の早慶戦について、振り返っていかがですか？

倉石 去年は、最後に追い上げられて自分たちがミスをして一回逆転を許し、再逆転で勝ちました。しかし、本来で言えば「もっと簡単に勝たなくてはいけなかった状況」ではありました。ただ、慶應の追い上げは「すごかったな！」という印象でしたね。ゲームとしては、「不味いゲームをしてしまったな」と思います。

去年は、運動能力や体格の面で慶應より恵まれていたので、それで勝てただけです。今年は逆に慶應の方が大きいので、うちはチャレンジマッチでやっていかないと！

普通にやっていたら普通に負けてしまうので、「どうかしなくては！」とは思っています。

飯野 技術というよりは、精神面で押されてしまったと思います。途中で崩れて相手のリズムに持っていかれてしまい最後は立て直すことができましたが、「勝った」ということだけが唯一の収穫でそれ以外何もなかったなと思います。今年は、もちろん内容もある上で勝ちたいと思っています。

宮幸 去年は、観客席で気楽に見ていたのでよく覚えていませんが、会場の雰囲気が好きです。良いプレーが出たら“すごい”という応援は、良いですね。
阪口 高校のインターハイ予選中だったので残念ながら見ていませんが、早慶戦というのは昔から1部とか2部とか関係なく、「何が起るかわからない」ので、「全力でやっていかなくてはいけない」と思っています。

——昨季は早慶戦後、両校明暗が分かれる形となりましたが、今季好成績を残すために必要なことはなんですか？

倉石 「1部に上がる」ことを目指すためには、「2部を全勝で勝ちあがる」くらいのことをしないといい成果には繋がらないのです。そのためにも春はトレーニングを積み重ねて、体を作っていくと無理です。リーグ戦は2カ月もあるので、それまで



早稲田大学
飯野貴弘A・コーチ 倉石平監督

にしっかりと体を作っていくって、“春の蓄積”を秋のリーグで表現していけるようにならないといけないのです。

今季の目標は、「1部に復帰することが絶対」で、その勢があればインカレもある程度いけるのではないかと考えています。おそらくインカレでベスト4に入るくらいの勢がないと、1部に上がることはできないと思っています。“やっと勝つくらい”だと多分無理ですね。何が起るかわからないですし、1部は「1部の中でゲームをやっている」ので、それなりに揉まれてチーム力は上がってきます。

そのため2部で全勝しても、入替戦で1部に勝てるなんて保証は無い。インカレでベスト4に入るくらいの実力をつけていかないとだめだと考えています。

飯野 少なくとも、ベースは体力です。身長がないですし、とにかく走るバスケをしなくてはいけないので、そういう意味では「40分間戦える体力」、それから選手の駒数を増やすことが必要です。

他にもシュート力の強化など技術的な課題はありますが、去年の慶應がやっていた、「攻撃回数を増やして、ファーストチャンスでシュートを決めてくるバスケ」というのは、見習うべきところだと思います。

宮幸 慶應は、スタッフがほとんど変わったので、そういう意味では試行錯誤を繰り返して、スタッフも選手も「まずはお互いに慣れていかなくては！」と思っています。



慶應義塾大学
宮幸朗監督 阪口裕昭H・コーチ

阪口 倉石さんは、「日本で一番バスケットを分かっている方」だと以前昔から思っているの、「早慶戦ではごまかされないように」と思っています。「スパイを送り込んで！」と思うくらい、「何とかしたい！」と思っています。

宮幸 教えてくれないですね？(笑)

倉石 戦術戦略を使えるところまでいけば、どうにかなる自信はありますが、そこまでいかないのが現状です。

その手前が大変なので。体力をつけて駒がいっぱい増えていけば、面白いことができるのではないかと思っています。早くそういうようにしたいですね。

——早慶戦に勝つために、中心となる選手はいますか？

倉石 まず4年生は、陰の力としてリーダーシップを発揮して、メンタル的な支柱としては確実に必要です。スキルの問題として、一番試合経験が多いのは池田ですね。池田が「どのくらいできるか？」は見当がついていないのですが、彼が「どうやったら一番目立つのか？」というのは、考えていく必要があります。他の何人かが頑張ってくれないと、チームスポーツなので池田は目立ってこないです。

飯野 池田もそうですし、3年生には他にも木澤や山本がいますから、彼らが、コートの上で、プレー面でも、精神面でも、リーダーシップを発揮してくれる事を期待したいと思います。

ただやはり、学生スポーツは4年生が鍵になると思

うので、4年生の支えは不可欠です。期待していません。

宮幸 慶應は、4年生がキャプテンを中心にいろいろとやっているの、「いい思いで卒業して欲しいな」と思いますね。次に、最初の5人だけでなく後から出てくる選手が、「どれくらいできるか？」というところだと思います。詳しくは、阪口から。

阪口 やっぱり、キャプテンの伊藤です。伊藤は、他チームから集中的にやられると思うので、伊藤が「精神的にどれだけ成長してくれるかな？」と考えています。シーズンが始まってからずっと話していますが、それが早慶戦に間に合えばいいなと思っています。

——六大学戦は、今シーズン初めての対外試合でしたが、手応えはいかがでしたか？

倉石 今までは、インサイドで核となるプレーヤーがいたので、そういうゲームをやってきたのですが、今は雲をつかむような状況です。ガードが不安定要素なゲームばかりやっていますが、試合にはなっているのでまあ嬉しいかな。勝ったり負けたりではなく、ゲームになっていることが嬉しいです。

飯野 体力をつけるためのトレーニングをやってきたのですが、それがなかなかゲームに現れないというのがあります。もう一つは、倉石さんが言われたように、今までのバスケットスタイルから転換しないといけない時期に差し掛かっているの、その必要性を改めて痛感しました。

宮幸 今日ミーティングで、「これは公式戦か？練習試合じゃないよな？」と話したのですが、こんなこと言うと悪いんですけど、この時期にやるのは少し理解できないところもあります。はっきり言って、怪我人が出なくてよかったなと思います。

阪口 彼らにとって初めての試合ですし、「どんなものなのかな？」と思っていました。「バスケットボールの楽しさが分かってくれば！」「のびのびやってくれば！」と、感じました。

——早慶戦で警戒すべき相手選手を教えてください

倉石 それは、やはり伊藤でしょう。伊藤が慶應の

キーマンなので、彼にゲームを荒らされたりとかすると、ゲームコントロールも、得点も、伊藤の思った通りに全部やられてしまいます。そうすると、慶應のプレーが全部生きてしまうので、「伊藤をどのようにおさえるか？」が、非常に重要です。でも、この六大学前の試合に限ってみると、「黒木の成長が著しい！」という感覚も強く持ちました。

飯野 やっぱり、伊藤ですね。あとは、大元も難しい体勢からシュートを決める選手なので、彼の攻撃力は脅威です。

宮幸 池田は、相当すごいなど。ああいう選手がいたらいいなと思ってプレーを見ていました。ただ早慶戦の前にトーナメントがあるので、その辺りでまた早稲田も変わってくると考えられますので、しっかり分析していきたいです。

阪口 倉石さんですね(笑)。本当に早慶戦に全精力を注ぐように、みんなにも言っていて私もそう思っているんですけど、「何が起るかわからない原因を作る」のがこの人なので、選手というよりは「倉石さんが何を考えてくるか？」ですね。

——早慶戦で観客の方々に注目して欲しい点はありますか？

倉石 早慶戦だと選手もみんな過緊張になるくらいなので、その緊張と緊張がぶつかっているというのは、そんなに学生の世界では見られないです。インカレの決勝とか、それくらいの雰囲気にならないとああいう感じは出てこない。

もしかすると、早慶戦はそれ以上かもしれないので、我々としても緊張している感じです。そういう緊張した雰囲気を、味わって欲しいなど。1年のうちで何回も見られる試合ではないですから。

観客が満員になることもあるし、両校ともにものすごい応援をすることもあって、ひとつひとつ個に一喜一憂します。それは他のバスケットのゲームでは絶対に見られないので、そういう部分を見て欲しいですね。

飯野 本当に最後の試合終了の合図が鳴るまで、どちらも絶対手を抜かないで戦うので、そこを見て欲



早稲田大学 倉石平監督

しいですね。

宮幸 やはり緊張感の中で、「どれくらいできるか？」という部分じゃないですかね。多分、「地味なこと」をやったほうが勝つと思います。「格好いいこと」じゃなくてね。

阪口 倉石さんが最初に言っていたように、「早慶はすごいライバル！」であると共に、「一番仲の良いチーム同士」だと思うので、「相手のプレーに拍手する」ような、そんな雰囲気になったら良いなど。良いプレーは、良いプレーなので。そして、親しいからきつくなる部分もあるんですけどね。

——早慶戦への思い入れや意気込みをお願いします

倉石 思い入れや意気込みと言っても、「100%以上の力を出せ！」と言うしかありません。それが全てです。

飯野 勝ちたい。それだけです。

宮幸 練習でやっていることができれば、それだけです。

阪口 4年生がやってくると思いますよ。期待しています。



慶應義塾大学 阪口裕昭H・コーチ

——今シーズン初の対外試合(六大学戦)が始まりましたが、初日を振り返っていかがですか？

伊藤 今年一年、チームとして意識していきたいことは、「全員で戦う」ということです。スターターの5人も、ベンチの選手も、「全員で声を出して頑張っていこう」と思って取り組んでいます。

この初日の2試合も、みんなで声を出して“チームで戦う”という意識を持ってできたので「良かった」と思います。結果、早稲田にも勝って2勝できたので、それも良かったです。

武津 僕らは、トレーニングしかやってきていないので、「試合になるのかな？」という不安な気持ちでしたが、蓋を開けてみたら「意外とできた」というのが正直なところです。

今年は、早稲田も小さくて去年の河上さんみたいなエースもいないですし、「全員で激しくいこう！」ということで臨みましたが、そこは最初にしては「できたかな？」と思っています。

負けはしましたが、「悪くない！」という印象です。

——春の練習は、どのように取り組んできましたか？

武津 バasketをやったのは、「1対1を4本」とかで、ほとんどがディフェンスのファンダメンタルとランしかやっていないので、最初の試合にしては悪くないと思います。

伊藤 慶應は、今年から練習メニューを4年生が中心になって決めていて、ボールとか使っていましたね。トレーニング班と練習班と2つに分かれ、“1時間半で交代する”ということ、今年初めて取り組んできています。そうすることで、Aチーム・Bチームが一緒になって練習しているので、全員が“やりたいこと”を明確に共通理解でき、「誰が出てやるべきことができる」という面で良かったと思います。その一方、Bチームと一緒に練習をするので、合わせてしまっている面があると思います。

もっともっと競争を高めるために、早慶戦に向けてAチーム・Bチームをしっかり分けて、「やっていかなければ！」と思っています。



——新チームになり変わったことはありますか？

伊藤 監督もコーチも変わったので、いろいろ変わりましたね。慶應は、元来学生が中心で考え、それに対しておかしな点があったら監督やコーチが指導してくれるというチームでしたが、「今年からまたそれをやろう！」と、練習スケジュールやメニューなど“すべて学生が考えた上”でやっています。4年生が、「しっかり考えてやっていかないといけない！」ということで、ミーティングも多くやり、下級生もついてきてくれているので、今はいい感じです。

武津 早稲田もミーティングが多くなっています。今までは、「後輩が思っても言えないこと」があったと思いますが、「そういうのをなくそう！」ということで、学生コーチの吉岡等が中心になり、変えようとしてくれているので、風通しは良くなったと思います。

——新1年生もチームに合流していると思いますが、いかがですか？

武津 馴染んできて、良いと思います。1年生は、まだチームでBasketをあまりやっていないのに、今

日の試合では“一生懸命やっていた”のが、フレッシュでいいなと思いました。下級生うまいですし、即戦力ですね。

伊藤 慶應はこの六大学戦では、阪口さんが“出さない”と決めていました。まだ3~4回しか練習に参加していないので、「4月からしっかりやろう！」ということで、各自調整しています。

でも戦力になると思いますし、早く一緒にやって「良いチームを作っていきたいな！」と思っています。

——去年の4年生が抜けた穴を埋めることはできそうですか？

武津 河上さんがなくなったのは、得点という面で相当大きいです。

今年目標である「全員でテンポを上げてやるバスケ」が、今日は少しできていたと思います。でも、テンポを上げることによって、今日慶應に90点取られたというがあるので、そこを改善しなくてはと思います。

伊藤 蛭名さんや矢嶋さん・本橋さんという先輩が抜けたことは大きいですが、抜けた穴を埋めようという考えは、去年ほどはないと思います。新しい選手が出てきて、去年の4年生を超える存在を「どんどん出していかなくてはいけない」と思っています。4年生が精神的な支柱になっていかないと、チームはついてこないと思うので、そこをすごく意識しています。——昨シーズンは両校暗黒が分かれたと思いますが、振り返っていかがですか？

武津 昨年の4年生は能力が高いですし、高校から有名な選手が多かったので、リーグ戦が始まる前は「いけるのでは？」という、安易な考えをしていたのですが、最初の試合でつまづいてしまって、「何かおかしい？」と言っているうちに最後まで歯車が合わないままに終わってしまいました。

今年はそういうことにならないように、ミーティングを多くして「互いに意見を言い合えるような環境」を作りたいと思っています。

伊藤 昨年は、17勝1敗で2部優勝して1部に復帰もできました。その4年生が、作り上げてくれた

チームの雰囲気、継続して練習できており、本当に4年生のおかげです。

しかし、さらに慶應が強くなるためには、「もっともっと練習しなくてはいけないこと」とあると思っています。

——今季目指していく「チームとしてのプレースタイル」などはありますか？

武津 エースがいなくなった分テンポを上げて、「全員でしっかり頑張る」ということを掲げています。そうするためにも、トレーニングはかなり時間をかけてやってきているので、テンポを上げることで得点を高くして、ディフェンスを粘って走り勝つような感じを目指しています。

伊藤 慶應もトレーニングに力を入れており、“1個1個のスクリーン”等をしっかりやり、「全員でやっていこう！」というのを常に言っています。

青学・東海といった“すごい選手”がいるチームには、全員でやっていかないと「早稲田や慶應が勝つことはできない！」と思っています。

——キャプテンとして意識していることはありますか？

武津 私は伊藤くんみたいに、試合に出て“プレーでどうこう”というのは難しいと思っているので、普段の取り組みから「誰よりも率先してやろう！」と思っています。言うということも大切ですが、「練習できつところを頑張る」といった取り組みは、4年生として譲らないようにして、そこは「私の中で大事かな！」と思っています。

伊藤 Basketballの技術の上手い下手で誰かに伝えるというよりも、「きつところを頑張ったり」「人がいないところでも練習をしたり」、そういう部分で示していかなければ下級生はついてこない。そういうところは、徹底していこうと思っています。

とりあえず「1番声を出す！」というところは、この1年間やっていきたいと思っています。

——お二人はプライベートでも交流はありますか？

伊藤 めっちゃ、仲悪いですね(笑)。

武津 今日も、本当は帰りたかったですけど。全然、

関わりがないですね。1年の時、リーグ戦でマッチアップしたことがあって、それ以来試合後にちょっと話したりしていますけど。

伊藤 少し似ている部分があるみたいですね。

武津 よく言われますね。どこが似ているか、分からないですけど(笑)。でも、仲悪くはないです。多分。——遊びに行ったりはしないのですか？

武津 無いです。

伊藤 絶対無いですね(笑)。連絡先も知らないです。

武津 連絡すること、無いっしょ(笑)。いい距離を保っています。

——お互いの学校で、仲のいい選手はいますか？

武津 いやー。やっぱり、九州という小さい輪の中にいたので、そんなにいませんね。

福元は、中学の選抜で一緒でしたが、福元は、先輩に“ガツガツくるタイプ”じゃないので。あんまり絡まないですね。

伊藤 友達いる？

武津 学校？いない(笑)。いないですよ。学部は、女子ばかりなので。ラグビー部とか何人かいますけど、そういう同じ人としか絡んでないです。

寂しい大学生活を送っています。これから頑張ります(笑)。そっちは、洛南多いもんね。

伊藤 私は、平野くんとは1週間くらい前もご飯食べに行きましたし、それくらい仲がいいですね。高校の時から、ストレッチ

とシューティングを3年間ペアでやり続けたので。あんまり褒めると調子に乗るので、でもあいつがいなかったら今の自分がないくらい大きい存在ですね。

洛南の会みたいなのがあって、とりあえず集まりますね。洛南は、上下関係が全然無いので、なめていますけど、でも仲

がいいですね。

武津 羨ましいですよ。私も舞鶴会やりたいけどね、人がいないので(笑)。寂しいですよ。

——昨年の早慶戦を振り返っていかがですか？

武津 昨年は、勝つには勝ったのですが、結構僅差だったので“慶應は強い！”という印象がありました。ベンチから見ていたので、試合の印象という会場での慶應の雰囲気すごかったです。

慶應が、代々木体育館に入ったら“観客がドッカーン！”みたいな。

伊藤 そんなこと、無いっしょ！

武津 早稲田入ってもシーン…。みたいな感じで、「まじかよー」ってなりました。正直。

伊藤 観客の人数同じぐらいでしょ？

武津 いやいや、7：3ぐらいでしたよ。

慶スポ早スポ、ちょっと慶應のほうが多かったですね？

武津 ほら！

伊藤 頑張れよ！(笑)。

武津 今年は、日吉なので余計にすごいですよ。まあ、まとめると「すごいな！」という感じでした。

伊藤 去年は入院していたのでトーナメントは出られなくて、早慶戦が復帰戦でした。しかし、去年は「絶対勝たないといけない！」という気持ちで戦いましたが、やはり河上さんとかにやられました。

4ピリの早稲田って“めちゃくちゃ”強かったですよ。いきなり来るので、「あの波に乗っちゃいけない！」。

武津 そんなこと思ってないでしょ(笑)。

伊藤 いや、思っているよ！“グーツ”と流れが来る。でも、慶應を応援する観客のほうが多かったのに、ほんと申し訳なかったです。今年は、絶対に勝ちたいです。申し訳ないけど勝ちます！(笑)。

武津 いやいや。泳がしときます。今日の試合は、慶應にあげたのですよ。

伊藤 去年は、早稲田が六大学戦で勝ち、早慶戦も勝っているの、今年、六大学戦で慶應が勝ちましたから(笑)。

武津 ここからですから、僕らは。

——早慶戦のキーマンとなる選手はどなたですか？

伊藤 主将としては「全員」と言いたいですね。それは両校変わらないと思うんですけど。ね？

武津 うん。全員だね。

伊藤 あえて言うなら…。早稲田は？

武津 いやいや！そっちが先に言ってよ！

伊藤 あえて言うなら…。やっぱり大元くん。去年も3ピリすごかったです。大舞台に強いのでやってくれるかなとは思っています。

あとは、権田くんをはじめとする4年生ですね。4年生は最後なので、私を含めて力を出し切らないといけないかなと思っています。

福元くんとかにも、期待ですね。難しいね、あえて言うのは(笑)。

武津 あえてですよ！私も全員だと思っていますから。

まあ、でもあえて言うなら平野ですかね？ 今日出た4年生も平野だけですからね。彼は、泥臭いプレーをするのでキーマンになると思います。

あとは、下級生だったら池田ですね。あいつは、本当にしっかりしています。しっかり考えていて、しっかりチームのために行動できるやつです。

伊藤 完璧だね。彼は。

武津 完璧よ。完璧よ。

伊藤 ルックスもよくて。

武津 池田は、個人的にも信頼していますし、池田のプレーは「チームに勝利を呼び寄せる」と思います。——警戒している選手はいますか？

伊藤・武津 あ——！(笑)

伊藤 毎年ある質問だけど、「あ——」ってなるね(笑)。なんだかんだ言って、「4年生の戦いなのかな？」って個人的には思っていて、武津くんがさっき言っていた平野くん。あいつは、ほんと気持ちが強く粘り強いですし、そういうプレイヤーほど嫌な相手なので、警戒するのは彼を含めた4年生になると思います。

慶應としては、「早稲田の4年生には負けられない！」

ので、警戒しています。

武津 気遣っているでしょ？

伊藤 あとでご飯おごって(笑)。

一同 (笑)

伊藤 でも、もちろん池田くんであったり、河合くんであったりすごく上手いので、やっぱり鍵となってくるのは、4年生だと思っています。

武津 私は、慶應も下級生の大元くんとか。僕個人的に大元くんのプレー、すごく好きです。

伊藤 みんな好きだよ。あんなの誰もできないもん(笑)。

武津 大元くんとか、あとは大分の後輩の福元くんとか、警戒すべきだと思いますけど、やっぱりここにいる伊藤くんをはじめとする4年生ですかね。

一緒になっちゃいますけど、その年に4年生が左右する部分は、かなり多いと思うので。

伊藤くんとか吉川くんとか、あまり話したことないけど(笑)。

伊藤 友達いないもんね。

武津 ぼっちなんで。でもやっぱり4年生ですね。——早慶戦の「ここに注目して欲しい！」というところを教えてください。

伊藤 欲を言うと、Bチーム戦から来て頂きたいです。

武津 私も、同じです。

伊藤 いつも一緒に頑張っている仲間なので、試合も面白いので彼らのためにも、注目して頂きたいです。

武津 本戦のほうは、見て頂けたら分かると思います(笑)。でも私も、Bチーム戦ですね。あいつらホントに頑張っていますホント頑張っているの…。3回言いますが、ホント頑張っています。るそこは、見て欲



早稲田大学
武津祐太郎



慶應義塾大学
伊藤良太

しいです。

なかなか日の目は浴びてないですけど、普段の取り組みは真剣にやっていてほんと頑張っていますので、注目して欲しいです。

伊藤 本戦の見どころは…？

武津 見どころ？

伊藤 この冊子を見るのは、本戦始まる前だからね。

武津 いやぁ、やっぱりお互いさっき言った通り“全員バスケット”のところですね。全員で戦うので。意地の戦いになると思います。

伊藤 プライドだね。

武津 うん、気持ちのぶつかり合いだよ。ルーズボールも全力で走って取りに行くと思うので。

伊藤 慶應は、早慶戦優勝が春の一番の目標。何が何でも、勝ちたいので。

武津 早稲田も！

伊藤 絶対嘘でしょ！(笑)

武津 まあ、最初はこう言わせておいて、泳がせておく。

一同 (笑)

伊藤 毎年すごいと思うけど、今年は特にもっと激しくなると思う。

慶應は3連敗しているの…。

武津 そうだね。早稲田は3連勝しているの。

伊藤 入学してから、1回も勝ったことが無い！。

武津 負けたことない…。とか言って、今年は今年なので！

伊藤 今年は慶應が、全員で「丘の上」を歌うので、一緒に歌いましょう！

——早慶戦にむけてどのような準備をしていますか？

武津 正直早慶戦に向けての準備というか、最終的な目標はやはりインカレとか一部復帰というのがあるので、早慶戦の準備は特にないと思います。

それなりに、慶應の研究はすると思いますが。最終目標へのステップアップだと思います。

伊藤 早稲田は余裕ですね。3連勝しているから。

武津 いやいや待って。去年早慶戦に勝っても、結

果としてシーズンは良くなかったですから、「そこだけに照準を合わせるの、どうかな？」というのが個人的な意見です。

だってそうじゃない？慶應は、去年早慶戦負けても、最後は良かった。逆なのよ。

伊藤 そうだけど、慶應は「春秋しっかり分けて考えている」ので。

やはり“勝つ！”というのが目標で、そのステップアップが、トーナメントとかリーグ戦だと考えています。なので、早稲田に勝つ準備は、徹底的にしていこうと思います。

武津 まあ、早稲田も、伊藤くんが「右に行くのか？左に行くのか？」を研究します。

一同 (笑)

——早慶戦とは、自分にとってなんですか？

伊藤 この質問は、初めてだ(笑)。

武津 えー。

伊藤 思い入れは、学年を重ねるにつれてどんどん強くなっています。

武津 確かに。年を追うごとにという感じです。やはり慶應には負けたくないです。

伊藤 世間的にもライバルなので。でも、仲良いけどね。ここの2人は、仲悪いけど(笑)。

武津 確かに(笑)。

伊藤 けど、「バスケ人生最後の大一番」という感じです。何十年たっても、「この試合のことは忘れない」と思います。バスケ人生「最後の早慶戦」とか、ね？

武津 意地のぶつかり合いです。うっす。伊藤を倒して。

伊藤 武津を倒して。

一同 (笑)

伊藤 自分にとっては、人生ラストのビッグゲームです。

武津 そうだね。同じです。

伊藤 こんな幸せなことはない。

武津 観客いっぱい入るし。特別ですよ。

伊藤・武津 みなさん、楽しんでください！



——今シーズン初の対外試合（六大学戦）でしたが、初日を振り返っていかがですか？

権田 今シーズン初めての対外試合だったので、やはり「上手くいくか？」心配な部分もたくさんありました。

個人的には、ファウルをたくさんしてしまいましたし、「100%満足のいく結果だったか？」という、そんなこともなかったです。でも、私が慶應に入学してから「早稲田に勝つ」ということがなく、「今日初めて勝つ」ことができました。

早慶戦で今日みたいな勝利が挙げられたら、「もっと嬉しいだろうな」と思っているの、今日勝てたことに慢心することなく、本番でも勝ちたいと思います。

木村 慶應は監督・コーチが変わりましたし、「少し今まではスタイルが違うのかな？」という印象を受けました。早稲田も新人が入ってきて、まだ練習もあんまりやっていないし、日が浅いので、両チームとも「チーム作り途中」という感じでした。

私自身は、まずしっかり怪我を治した後にチームに入れるようにすることを、目標にしています。

今、「慶應は、早稲田に勝ったことがない」みたいな

ことを、権田くんが言っていました、正直僕らはそこまで気にしていなかったです。

本番では、私の中で「早慶戦は勝つ」ことしか経験していないので、最後まで勝とうかなという感じです。

吉川 監督・コーチが変わって新しい試みをいろいろ繰り返している中で、今日新しく試してみて「どこまで成功できるのか？」という感じでした。ある程度の手応えは感じましたが、やはり早稲田は木村（晃）くんも出ていなかったですし、新人がどんどん力を伸ばしてくると思います、早慶戦は今日みたいな形で「しっかり」勝ちたいと思います。とりえず、今日初めて早稲田に勝てたので嬉しかったです。

平野 慶應は、「すごく噛み合っているな！」という感じでした。しかし、早慶戦では、しっかり早稲田が勝てるように！ ちょっと慶應は、浮かれていますので（笑）。

——お互いのチームの印象はいかがですか？

権田 1年生がやはり「すごいな！」というのが、去年との1番の違いだと思います。

さっき木村（晃）くんも言いましたが、まだ練習にも参加していない中であれだけの力が発揮できる

というのは、これから何ヶ月も練習していったら「恐ろしい存在になるかも？」と思うと、結構恐いです。

木村 去年の入替戦とかも見ていましたが、慶應はすごくタテに速いイメージで、「前に前に」「点を取って点を取って」という感じがありましたが、今年はよりチームワークというか、合わせのプレーとかが多くて、チームとしてちょっと違うというか、方向性が変わっていているのかなという気がしました。

個人的に、慶應の選手はすごく能力的に高い選手が多いので、「そこまで合わされると、「より厄介になってくるのかな？」という気がします。

吉川 去年の早慶戦は、河上さんだったり木村（晃）くんだったり「中のプレイヤーにやられていた」というイメージがありました。しかし、今日はガード陣が速くて、慶應がやりたいバスケットをやられてしまった場面があったので、その辺りが噛み合ってきたら「早稲田は恐いな」という部分があります。

平野 慶應は、去年に比べてシステムではなくて、「形にとらわれないバスケット」をしているかなと思いました。「いつものシュートタイミングとは違う」と、変わりましたね。すごいです。

——お互いの選手の印象は？

木村 吉川くんと権田くんは、もう中学から知っているの、「2人は相変わらず点を取るな」というイメージですね。

中学の時は、選抜とかでチームメイトだったので、前は頼もしい仲間だったんですけど、今はめっちゃ厄介です。わざと外してリバウンド取ったりするし（笑）。吉川くんは、全部突撃してバスケットカウント取ってくるし（笑）。

平野 突撃部隊だよ（笑）。

木村 伊藤くんとかも確かに厄介なんですけど、やっぱりキャプテンだし、ガンガンいくっていうイメージですね。ここの2人に乗られると、ちょっと慶應としても乗ってきちゃうと思うので要注意ですね。

平野 権田くんはオールラウンダーで、今日もしっかりブロックされましたし（笑）。吉川くんは木村（晃）も言っていますが、突撃部隊なので、早慶戦では

この突撃部隊とミスターオールラウンダーを「どう止めるか？」が鍵ですね。

権田 木村（晃）くんは中学の時からすごかったので、ジャンプシュートも相当上手く、大学入っても早慶戦のいいところでシュート決めたりとか、お祭り男のイメージですね。そこを乗せないために、「どういう風にするか？」を考えていかなければいけないですね。

平野くんにも、中学の時に決勝でやられたので…。それに加えて、「泥臭い部分で一番頑張れるプレイヤー」ということも洛南の人からも聞いていますし、実際にプレーでも体現しているの、すごく厄介な2人です。

吉川 さっき権田も言っていました、ずっと全国のトップレベルのトップスターの方々です。特徴があって、木村（晃）くんだったら「シュートが上手い！」だとか、平野くんだったら「泥臭いところ頑張れる！」とか。

しかもこの2人が頑張ると、「チームが盛り上がりっているな！」という印象が強い。

早慶戦は「流れ」というのが、「チームの盛り上がり！」だったり、「会場の雰囲気」ということのが、とても大きな影響を与える試合です。だから、「しっかりこの2人を静かにさせて」、慶應が勝てるようにしたいです。

——お互いのチームから取り入れたい部分はありますか？

権田 シュート力は、取り入れたいかな。

吉川 あとは速攻の出し方が、慶應より「全然上手いな！」と思っていて、リバウンドを取ってガードに渡してからの切り替えが速く、慶應もそれをやりたいです。しかし、全然上手いじゃない。

平野 なんだろうな…。就活中なので、慶應OBのコネとか取り入れたいです（笑）。

権田 早稲田もいっぱいコネあるでしょ（笑）。

平野 全然違うよ（笑）。

木村 ベンチの盛り上がりとか、慶應は一体感がある。早稲田は、結構個人個人で盛り上がる感じで、ま

とまり感がない。早慶戦の応援とかも、代々木でやっているのに”アウェイ”みたいな。

あの一体感、ちょっといいなと思います。

——この冬の間は、どのような練習をしていましたか？

権田 2～3月というのは、監督・コーチが変わって練習のやり方も相当変わりました。そのやり方とか、ルールっていうものを、みんなに徹底させる期間でした。

吉川 とりあえず、ディフェンスのルールをしっかり徹底させようとして、ディフェンスの練習は結構重点的にやっていました。

オフェンスは、個々が能力を持っていると思うので、ある程度自由にやらせようという感じでした。後はシューティングとウエイトを、結構やりました。

権田 やっぱりシュートが入らないと勝てないし、1部に上がると体のぶつかりとかも相当激しくなっていると思うので、そこを重点的にやりつつ、練習ではみんなの共通理解としてルールを徹底することを中心的にやっていました。

平野 とりあえず走りました。走ってウエイトして、3日前ぐらいに初めてスクリメージをやりました。ずっと、走ってウエイトでした。

木村 すごく走っています。私は怪我をしているので走っていないけど、外から見ていて「今年はすごく

走っているな」と思います。

権田 例年以上に走っているの？

木村 今年は、走っているよ。早稲田は、今年背が低いので、そこは“走ってなんぼ”っていうところはあると思うので、そこには重点置いています。

去年1部でやりましたが、体格の面で言ったら東海大・青学大とかと比べると弱かったので、そこをもう1回やり直して、シーズン長いですから土台作りみたいな感じでした。

——今年のチームカラーは？

権田 やっていききたいことは、全員がみんなきちん意見が言えて、コミュニケーションがとれるチームというのを目指しています。今のところ「実践できているか？」と言われれば微妙ですが、みんなが意見を出して”元気なチーム”というのは作れてきていると思う。

元気なチームの次の段階として、“実のある声”や”意味のある声”を、出せるチームにしていきたいです。まだまだですが。

吉川 去年まで佐々木先生がコーチだったので先生の方針に従っていた感じが強かった。今年はそこから解放され、みんな自由にできるというか、自由な意見も発せられるようになりました。

平野 早稲田は、キャプテンの武津が日本男児みたいな「すごく硬派な真面目なやつ」なので、あいつについて行って、カチツとした感じになっていくのかな。

木村 監督は、「みんなキャプテンでもいい」と言っています。今年は私たち4年生が多く、4年生がチームに与える影響はすごく大きいと思う。

武津がキャプテンですけど、プレーの面では、平野や自分が、リーダーシップを発揮できると思う。武津は、チームのキャプテンとしてしっかりやってくれると思います。「実戦ではみんなが、自覚を持ってやっていく」というのが、早稲田のチームカラーではないかと思っています。

——新シーズンを迎えるにあたって、今年キーマンとなりそうな選手はどなたですか？

木村 私は、武津だと思います。武津が、いかにチー

ムをまとめられるか？

まとまっていない訳ではないですけど、去年2部に落ちてチームとして1部で戦うことができないし、今年は1部に復帰するということが絶対条件の中で、早慶戦を含めて他の試合も戦っていくので、大きな目標に向かって「どれだけみんなが武津を中心にまとまっていけるか？」だと思います。

なので、僕らも武津をサポートしますし、武津もしっかりみんなを引っ張って初めてチームの力が発揮できるのではないかと思います。

平野 私も武津だと思います。その通りです。

権田 山崎 哲は、阪口さんも期待していますし、インサイドは私たち背が低いので、私とか黒木とかゲームに出ない場面で、彼が上手くチームの柱になってくれば、たぶんインサイドの幅が相当広がってくると思います。「山崎の成長が、今後のチームを救うのだ！」と阪口さんも言われていたので、「そうだ！」と思います。

私自身も、割とインサイドのプレーもやるので、今年は山崎にいるんなことを教えていけたらなと思っています。

吉川 大元ですね。あいつが一番能力を持っていて、得点能力とかもスバ抜けている。しかし、やっぱりまだ優しい部分がある。「自分が、自分が」というものがない。練習中も「120%の力を出せ」と言っていますが、「80%の力でも僕らより速く走れる」だとか、得点を挙げられているので、いかにあいつに「自分が点を取るのだ！」という意識を持たせられるかということを、私は今、頑張っています。

——今シーズンの個人的な目標を教えてください。

吉川 今年は、去年と違って副将という責任ある立場なので、責任あるプレーをしていこうと思っています。3年生や伊藤が苦しい時に、「自分が一番頑張ることでチームをいい雰囲気を持っていくこと」が、自分の役割だと思っています。

平野 個人としては、チームを一部復帰させて、最後のインカレにおいて日本一になることです。

木村 まず、私は膝を治します。そして私は、武津

早稲田大学



木村晃大

平野哲朗

と平野についていっただけです。

権田 いろんなポジションを、任せられると思います。得点を求められ、リバウンドも求められてと、いろんなことを求められるシーズンだと思うので、多分やらなければならないことがたくさんあって、大変なこともあるかもしれない。

しかし、一つ一つ乗り越えないと成長もしない。一つ一つやらなければならないことを、一つ一つ解決し、1年終わった時に「満足して、やりきったぞ！」と思えるような1年にしたいです。

——ではチームの目標を教えてください。

平野 チームも同じです。一部復帰とインカレ優勝です。

吉川 早慶戦で優勝することと、あと日本一です。春は、早慶戦だけしっかりみて頑張ろうと思います。

権田 今年は、早慶戦にかけているから。

吉川 いや、本当に早慶戦だけみているから。

権田 俺らは、“All for 早慶戦”だから。

吉川 本当にそれだよ。

木村 だって、俺ら勝ったら4連覇だもんね(笑)。

権田 俺らは、今3連敗だよ。

吉川 十分に泣いてきているからね。

権田 ちょっと考えてみ？3連敗の気持ち。

木村 うーん、なんかね、分からないね、その気持ち。負けたことがないから(笑)。上からになっちゃ

慶應義塾大学

権田隆人



吉川治瑛

うけど。
でも、今年早稲田はアウェイじゃないですか、それに対してどう思いますか？

吉川 “完全にホーム作ろう”としているから(笑)。

——オフの日はどのように過ごしていますか？

平野 飲んで寝ています(笑)。前の日に飲んで4時くらいに起きて、ご飯を食べてそのまま寝るみたいな。大学生です(笑)。

吉川 女の子と遊んでいます。権田もそうです(笑)。慶應は、女子としか遊んでないです。

キャプテンが、いけないのです。キャプテンが遊んでいるので、そうなってくると「どうしてお前遊んでいないの？」みたいになる。遊んでないと馬鹿にされる。

権田 確かに、そういう雰囲気あるよね。

吉川 伊藤が悪いということで、遊んでいます(笑)。

権田 僕も女の子と遊んでいるのかな…(笑)。女の子っていうと良くないからね、お付き合いしている子と。不特定多数じゃなくてね。

木村 そう言わないと、誤解を招くからね。

吉川 慶應はみんなそうです。オンオフの切り替えを、しっかりやっているのです。

木村 私は、キャプテンの武津さんと共にお買い物に行かせて頂くことが、この上ない幸せなので。武津さんに「行くぞ!」と言われたら、「へっへい!」と言ってついてきます(笑)。

そして荷物を持って…。それが僕のオフの過ごし方です。私は、武津さんと過ごせるのが一番幸せなんですよ。

——試合前のモチベーションの上げ方など、何かありますか？

権田 「左足から紐を結ぶ」ことくらい。

吉川 私も右足から結んで、あとスラムダンクの13巻を読みます。流川が海南戦で、一人で点とるやつ。

権田 プレーに出ているよね(笑)。

木村 私は、チームメイトの小林くんとアップの時のぶつかる練習を全力でやって、全力で吹き飛ばされます。

私は、駿を担ぎまくりです。他には、「朝駅までの道のりは絶対こう歩いていく」みたいな。この信号を渡って、この道を歩いて…。面倒くさい奴なのですよ(笑)。

平野 駿は担がないですね。

木村 一時期の「試合前に団子を食べよう!」みたいな。

平野 あったね!一時期2人でやっていた。

試合前は、「とりあえずみたらし団子を食べる」みたいな。2日くらいで飽きました。

権田 一時期すぎる(笑)。

平野 あと私はモモカンをよく入れられるので「すごくゴツイパワータイツを、これから試合で履こう!」、みたいな。でもその日試合に出られなくて、止めました(笑)。

インナーも着ないし、そういうことやりだすとダメですね。

——監督・コーチについての印象をお願いします。

木村 よく怒られますけど、それについても自分が悪いと思っているので。

平野 嘘です(笑)。

木村 正直自分としては、「怒られるのは仕方ない」と思いますが、結構“怒るイメージ”とかもあると思います。私は、倉石さんのゼミに入っていますが、本当に普段はNBAとかバスケのことが大好きないい人です。NBAのこと話し始めたら、「授業時間全部終わっちゃう」みたいな。バスケに対する熱意とかは、本当に「日本でトップの人なのだ」と思います。

平野 私も同じです。

権田 私は、高校のときの先生が、今年から大学のコーチになられたということで、割と全部が全部ではないですけど「考えていることとか、どういう風にしたいのだろうか?」ということは、何となく汲み取れる側だとは思っています。そういうアドバンテージがある分、今まで阪口さんとあまり接してこなかったチームメイトたちに、「ああいう風に考えているのでは?」とか、提案できると思います。

吉川 自由にバスケをさせてくれる。でもその自分

分たちで考えないといけないという難しさがあります。

——今までに印象深かった早慶戦はありますか？

木村 全部印象深いわ。

吉川 全部悔しい。

権田 全部だめだったし。

平野 私は、1回も早慶戦に出たことがないのです。去年は怪我で、一昨年とその前は「この時期は絶対に出場しない」。それで、秋から出始めるのです。「外から見ても分からない」、という感じです。

木村 早慶戦は、本当に楽しいです。とりあえずあの中で出場し、自分がバスケをしているのが好きなので楽しいイメージしかない。そして、勝てるので(笑)。

権田 毎回相当悔しいので、毎回印象深いとしか言えない。どの負けが「一番悔しかった?」とかもないですし。

吉川 そうだね。全部悔しかった。

——早慶戦とはなんですか？

平野 命がけっすよ。プライドが掛かっているしね。

木村 俺は、お祭りなのだけど。楽しくバスケできますね。

一番自分が早稲田大学にいるのが誇らしいというか、勝ったらなおさらですけど。

勝ってたくさんの人が来てくれると、「自分って早稲田大学の学生なのだ」ということ、みんなが見てくれて「早稲田のためにやっているのだ!」というのを感じられるので、バスケの試合以上の意味がある大会なのかなと思います。

権田 こんなに盛り上がる試合って、早稲田と慶應の試合くらいしかないと思います。代々木が満員になって、あれだけみんなが声援を送ってくれるという“特別な試合に出場できる権利”があるのって早稲田と慶應の学生しかいないと思うので、本当に特別な試合なのだと思います。

吉川 伝統ある早稲田と慶應だからこそ、あれだけの盛り上がりだったり、OB・OGが来てくれて盛り上がったりののがあって、今後もずっと続いていくと



思うのですが、その歴史の1ページを刻めるような大会です。

——最後の早慶戦への意気込みをお願いします。

権田 絶対勝つしかない。本当に“浮かれ野郎”なんかに、負けたくないで(笑)。

春シーズンは、早慶戦を目標に慶應はやっていきますし、今年一年を振り返った時に、「早慶戦に勝つか負けるか?」、その結果は私達の人生にも後々関わってくると思うので、「何としても負けられない一戦!」として、絶対勝ちたいと思っています。

木村 チームとしての目標は、1部復帰と日本一なので、そこは変わらないけれど、前期の最後の早慶戦を勝って終わるといのは、チームとしてもその本当の目標に対しても意味のある試合になると思う。まず勝って前期を終わるといのは、僕らは「勝った早慶戦しか経験してない!」ということを、今回勝つことができたら多分死ぬまで言うのだろうなと(笑)。私は、「もう早慶戦は勝つものだ!」と思っているので、絶対に勝つと思っています。

吉川 3年間負けてきたので、「終わりよければ全てよし!」という考え方もあって、「自分たちの代で勝てばいいかな?」と切り替えている。しかし、やっぱり「最後に自分たちの代で勝ちたい!」ということと、後輩達にも勝利を味わせたことがないので、勝ったらそれだけの感動だったり喜びだったりがあると思う。それを味わいたいと思っています。

平野 1985年(第43回)の早稲田4連勝以来の4年連続で勝った代ということで、そこで勝つことによって後輩達にも語り継いでいきたいなど。あと、アウェイということもあるので、黙らせてやります(笑)。

——六大学戦は、今季初の対外試合でしたが、初日を振り返っていかがですか？

池田 疲れました。本当に疲れました。

大元 ずっと出っぱなしだったの？

池田 いや違うけど。

黒木 早稲田にずっと負けていた分、試合前から慶應はみんな燃えていたのを感じましたね。結果勝ってよかったですが、まだ詰められる部分もあったなと感じています。

——早慶戦でのキーマンはどなたでしょうか？

福元 3年生だと思います。

池田 早稲田は、木澤ですかね。

大元 今日はちょっと木澤くんのスリーポイントにやられてしまいました。所要所でしっかりこなしてくるので。バスカンのところとか。

木澤 いや大元くんの方がすごかったです。

大元 いやいやいやいや。木澤くんは、上げるのが上手いんですよ。私は、本当に外していました。



——お互いの印象はいかがですか？

福元 早稲田は、すごく展開が速くて、正直びっくりしました。

山本 慶應は、チームルールがすごく徹底しているなと思いました。ディフェンスとかオフェンスとか、すごくシステムチックにやっていて、ほぼ完成されているのではないかと。

木澤 今シーズンは、未だほとんどスクリーンしてないですよ。

大元 本当に？慶應も2日間しかスクリーンしてなかったです。

福元 スタートのメンバーも、今日が初めてでした。

木澤 慶應はもう、ディフェンスのダブルチームとか、オフェンスのセンターフラッシュのスクリーン、ハイポストフラッシュとかが、しっかりできているなと感じました。

大元 全部ばれていますね(笑)。UCLAとかやってないし。でもそれを木澤くんに言われるのは、ちょっと嫌ですね(笑)。

——お互いのチームの取り入れたい特徴はありますか？

黒木 切り替えの部分が、早稲田はすごくいいなと思いました。

木澤 慶應は、リズムとか関係なしにやってきて、速攻でいきなりスリーを打ってきました。そこが慶應の持ち味なのかなと思います。思い切りがいいです。そういった部分が早稲田には欠けているのかなと思います。

大元 ピックが上手いなと思いました。ハイピックとかですごくスペースができていて、そういうところは、慶應にはないコートでのスペースの作り方とか、上手な空間の作り方だと思いました。

——皆さんは新3年生ということですが、上級生になって意識の変化はありますか？

山本 やはり上級生としての自覚を持って、下級生を引っ張っていけるように頑張ります。

一同 同じです。

福元 今までは先輩方についていだけでしたが、

上級生になって引っ張っていく部分と、逆に4年生を支える立場にもあるので、その考え方や言動などにすごく敏感になっています。

——昨シーズンを終えてから今シーズンまではどんなことを意識して過ごしましたか？

大元 3年生になって甘えは許されないとと思うので、結構ストイックにやっていきたいというのが自分の中にはあります。

私は、シューティングが好きなのでほぼ毎日欠かさずやってきましたし、朝練とかも積極的にやってきました。そういうところは、3年生になったときに決めたことなので、これからも継続してやっていきたいと思います。

池田 2年生までずっとやってきたことの中で通用する部分と通用しない部分というのがありました。シーズンオフになってからは、そういったことを自分の頭の中で常にイメージを持ってシューティングやトレーニングをしてきました。

——去年の4年生が抜けてチームの雰囲気に変化はありましたか？

木澤 新キャプテンの武津さんや平野さん、木村(晃)さんら、4年生が練習中にしっかりと声を出してくれていて、自分たちはそういった上級生を裏切ることはできないなと思っています。

黒木 うちのチームは人数が少ないので、その少ない中の一人一人が興味を持つというか、声を出す。お互い指摘し合うことでコミュニケーションがすごく取れていると思うので、いい雰囲気で作られているとは感じています。

——オフの過ごし方を教えてください。

木澤 よく1人…で買い物に行っています。

一同 1人！？(笑)

山本 寝ています。

池田 疲れていたら休みますし、疲れていなかったら遊びに行ったりしますね。

黒木 私は田舎者で全然知らないの、いろんなところに行ってみたいなっていうのがあって、1人だったり友人とだったり、結構いろんなところに出か



けています。アクティブな感じですが。

福元 私も田舎者なので(笑)。部活の同期と仲がよいのですが、部活以外の友達とも会ったりします。

大元 私は、カフェで読書しています。

一同 (笑)

黒木 狙っていますね(笑)

大元 あ、でも私は一人暮らししているので、みんなと遊びに行くことがあんまりないですね。体育館へ行って、たまたま自主練している人とバスケしたり、そのあと一緒にご飯食べたりっていう感じです。

——バスケット以外の趣味はありますか？

大元 読書ですかね(笑)。

木澤 1人映画とか好きです。

大元 私も映画を観に行くのは好きです。

山本 私は趣味がないです。

——この機にお互いに聞きたいことはありますか？

大元 慶應はバスケ部で集まるのがよくありますが、早稲田はどうなのかなって思いますね。

福元 慶應は同期で、この前も7人ぐらいでご飯とか行って。

木澤 まあ、仲いいですね。

——新キャプテンについての印象は？

大元 伊藤さんは、本当にバスケットに対してストイックなので、チームの中心となって動くには一番だと思います。行動で示すタイプなので、伊藤さんを筆頭にチームがまとまっていこうっていうようにベクトルが同じ方向を向いていると思います。

福元 バスケットにストイックというのが本当にすごいので、そういうところは私も含めて下級生もやっていきたいと思います。

黒木 リスペクトしています！

木澤 武津さんもストイックで、キャプテンになってからも、練習をきちんとやってないと厳しく注意してくれます。「さすがキャプテンだな！」と感じます。副キャプテンの平野さんも、声で盛り上げてチームを引っ張ってくれます。2人とも本当に尊敬し

ています。

池田 自分らにない部分をしっかりやってくれていて、本当に尊敬できるキャプテンだと思います。

——早慶戦の意気込みをお願いします。

黒木 私たちの代もちろんそうですけど、伊藤さんの代も入学してからまだ一度も早稲田に勝てていないので、その分“勝ちたい”というのが強いですね。

福元 今年はホームというのもありますし、優勝したいです。

大元 伊藤さんを胴上げしたいですね。伊藤さんとできるのもラストシーズンですし、ゴマをすとかじゃなくて(笑)。伊藤さんを、男にしたいです。

木澤 私たちはこの2年間勝ってきているので、どっちかと言うとやりやすいイメージがありますね。

池田 今日は、負けたけど。

木澤 そうですね。4年生のためにも勝ちたいです。頑張りたいです。





——昨シーズンを振り返っての感想をお願いします。

河合 2部に落ちたことや成績を残せなかったことを考えると、早稲田というチームにとっては苦しい1年でした。

個人としては試合にも多く使ってもらい、その中でポジションも1つ上がって1年間で大きく成長できたな、と感じています。

宮脇 昨年は全然勝てなくて、リーグ戦はとても苦しい日々でした。でもその中で、私もスタメンなどで長い時間試合に出ることができ、1年で大きく成長できたと思います。

西戸 慶應はガード陣が多いチームなので、目標とする先輩方がたくさんおり、そのプレイを参考にできました。また、試合に出るチャンスももらい、それらを実践することもできました。多くの経験を積む事が出来たシーズンだったと思います。

チームとしても一部復帰という目標を果たすことができ、今シーズンへのモチベーションにも繋がり、とても良かったと思います。

後藤 私は3人と違って昨シーズンは試合に出る機会がありませんでした。ですが、そういう経験をする

中で、自分がチームに入ったら「こういうことができるのではないかと」、という外の目が身に付いたなと思います。プレイでの成長はそんなにありませんでしたが、バスケット選手として成長できたと感じています。

チームとしては4年生が一体感を出してくれて、チームを作りあげてくれたという感じがすごく良かったです。慶應としては1部にも上がれ、いい1年だったと感じています。

——今日、六大学戦で対戦した感想をお願いします。

後藤 早稲田は選手個人の能力が高くて、1対1の部分では慶應は敵わなかったと思いますが、私たちはそういう部分をチームで補えたのだと思います。早稲田の選手は一人一人が本当に強いので、そのあたりは私たちも見習わなければいけないと感じました。

西戸 2月にシーズンインして、チームのルールを色々確認してきたことがありますが、それをこの早稲田戦でうまく機能させることができたということが、6月の早慶戦につながる点だと思いました。

また、改善すべきところも見てきたので、そこはあ

と3ヶ月、自分たちで取り組んでいきたいと思います。河合 慶應と早稲田、今季のチームは結構似ているような気がしています。早稲田も慶應もガードを多く使って、オールコートで当たっていった。チームルールとかは違うと思いますが、スタイル的には似ているなど試合中にも感じました。

慶應の方がディフェンスの足も動いていました。早稲田が、速い展開で作りたいと考えていたリズムを、慶應に先に作られてしまって、そこは見習わなければいけないと感じますね。

あとは、早稲田はこのスタイルが変わってから日が浅いので、残り3ヶ月できちんとみんなで統一意識を持ってやれたら、もっと成長できると思います。「その時には見ているよ!」、という感じです(笑)。

宮脇 自分たちがやりたいと思っているディフェンスや速攻が、今回あまり発揮できなかったのも、そういう早稲田の良さを出して、早慶戦では勝ちたいと思います。

——相手チームで警戒している選手はいますか？

宮脇 同じポジションの黒木さん。リバウンドが強いの、そこを頑張って抑えられるものなら抑えたいな、と。

河合 私は同じポジション、同じ高校出身で、高校時代からポジション争いをしてきた伊藤さん、大元さん、西戸くん。その3人に負けたくないくらい、ディフェンスもオフェンスも頑張りたいと思っています。

西戸 私はガードとして試合に出ることが多いので、池田さんとか河合くんとかですね。点数を取ってくれる先輩はたくさん居るので、自分はディフェンスを頑張れたらと思います。

後藤 私もガードとして、河合くんと池田さん。あと、早稲田は新生も結構入ってきたので。あと3ヶ月で、そういう人たちを目標にするのではなくて追いつけるように、しっかりやっていきたいです。

——新チームの雰囲気を見せてください。

後藤 新生はまだ練習に来ていないのですが、監督をはじめ体制が大きく変わりました。

去年まではいい意味で「やらされる」というか、練

習も与えられたメニューを自分たちでこなすというイメージでしたが、今季は4年生を中心に練習メニューも自分たちで考えてやっています。学生主体というか、自分たちが主役になって盛り上げたりして。去年と比べて私としては、居心地のいいチームになったなと感じています。

西戸 チームのルールは、4年生が考えていることを中心にしていますが、1・2年生から提案したり、それがチームのプレイにうまく溶け込めたらそれがチームのルールになったり、という事もあります。「自分たちで考える」というところが大きく変わったので、そこを伸ばして慶應らしさを出していきたいです。

河合 早稲田は、そんなに雰囲氣的には変わっていませんが、去年は規則がこれといって決まっておらず、緩くなってしまうことがありました。

今季は、そういうことを徹底しようという話になって、全員でミーティングをする回数も増えましたし、学年ごとのミーティングも増えました。話し合いを持つことで思っていることをきちんと伝えるようになって、コートに立ったら学年関係なく指摘し合えるような仲に徐々になっています。そういう面では、去年に比べてすごくいい意味の厳しさを持ってやれています。

宮脇 雰囲気は、相変わらず楽しい感じでやっていますが(笑)。練習で緩む部分は少なくなってきて、「いい感じの練習ができているかな?」と思います。

——自分のチームの強みを教えてください。

宮脇 まだできていないのですが、早稲田はディフェンスからのブレイクが持ち味なので、それを出していけば「いいゲームができて勝てるのではないかと?」と思っています。

河合 それに加えて、去年に比べて今年は絶対的なエースがいなくて、みんなだいたい同じくらいのプレイを、「誰が何分出てもできる」というのが強みだと思います。今日の試合もそうだったのですが、たくさんの方がまんべんなく与えられたプレイタイムで“全力を出し切れる!”というのも今年の強みかな

と。

西戸 ディフェンスからの速攻などは、早稲田と変わらないところなので。

でも、盛り上がった時のベンチと選手の一体感では勝っているのではないかと思います。そこを自分たちも楽しみますし、観客の皆さんにも楽しんで注目していただけたらと思います。

後藤 まずは「一体感」。慶應はタテとヨコのつながりが部活においても大学においてもすごく強いところなので。それが特にバスケットでは、しっかり先輩後輩関わらずに意見が言えるし、仲良くじゃれ合ったりもできるということで、そういうチームワークという点では他の大学にも勝っていると感じています。あとは、今年結構身長が小さいチームなので、練習でもシューティングを取り入れています。外のシュートなどが、チームの強みになっていけばいいなと思っています。

——逆に、相手チームの強みは何だと思えますか？

後藤 早稲田は、やっぱり1対1ですね。今日の試合でも感じたことなのですが、池田さん・河合くんたちが、1対1でバンバン抜いてきて。個々の能力が本当はずば抜けていると思うので、そういうところは私た

ちも、もっと技術を磨いて攻められるようになればいいなと感じています。

西戸 後半特にやられてしまったように思うのですが、アウトサイドのシュートの決定力が非常に高いこと。ノーマークやここで欲しい、というタイミングでシュートを冷静に決められる力を身につけたいと思います。

河合 慶應は、自分よりもペースを持続させる力が強くて。今日の試合を振り返っても、慶應のペースで試合が進んだ時間は早稲田の倍近かったように思い、その勢いと持続力を感じました。私たちは、すぐ流れが切れてしまって、そこから落ちていくみたいなことがおこりやすいので。その辺りを見習って、常に自分たちのペースで高いレベルでプレイを続けられるようにしたいと思います。

宮脇 勢いに乗ったらすごいし、早稲田が勢いに乗ろうとした時にも、すぐまた慶應のペースに戻されてしまうところ。そういう勢いに乗る力を見習いたいです。また、チームディフェンスやダブルチームの戻りも早くて完成しているなど思ったので、そういうディフェンスも見習いたいです。

——慶應にとっての早稲田の印象はいかがですか？

後藤 去年も早慶戦で負けていますし、今年の4年生は3年間ずっと負けているので、早稲田はライバルというか常に上にいる存在で、絶対今年は勝ちたいなという気持ちが強いです。

西戸 早慶戦の印象だと、早稲田の校歌を歌うときの独特のフリのイメージが強くて、やはり、「負けて歌われた」ということもあります。それを阻止するためにも今年こそは絶対に勝ちたいです。

——早稲田にとっての慶應の印象はいかがですか？

河合 去年は早慶戦で勝ったとはいえ、シーズンの成績的にみて早稲田が2部に落ちて慶應が1部に上がっているの、私たちが今年1部に上がるためにもその1つのステップとして、慶應が強いことは分かっていますが、勝ちたいなと思っています。

宮脇 去年は早稲田が1部で慶應が2部でしたが、今年は逆の立場になったのでチャレンジャーの気持

ちで、「勝って早稲田の校歌を歌いたい」です(笑)。——オフの日はどのように過ごしていますか？

宮脇 オフの前日にとりあえず遊びまくって、オフの日は寝ます(笑)。

河合 私もそういう日はありますが、オフの日は早く帰ってチームメイトと映画とか観に行ったりします。

西戸 そうですね、私は結構家庭的なので(笑)。

宮脇 嘘つけ!(笑)

西戸 掃除、洗濯、買い物、自炊です。

河合 “嘘”って、つけといてください(笑)。

西戸 で時間が余ったら、好きなものを買に行ったり、映画を観に行ったりします。

後藤 西戸くんが言っていた掃除っていうのは、嘘だと思います。彼の家に行ったりしますが、結構散らかっていますから(笑)。

西戸 おい!

後藤 私は、買い物行ったり、女の子と遊んだり。

河合 うらやましいな(笑)。

宮脇 今のところ“赤線”引いて載せといてください。

河合 更に太字で(笑)。

——お互いのコートの外での印象や、普段のキャラクターはどのような感じですか？

西戸 河合くんは隠し事が多いです(笑)。

宮脇 「洛南は秘密主義」だから、自分のことはあまり出さないのですよ(笑)。

西戸 で、後藤くんはチャライです(笑)。

宮脇 さっきの発言からも、それはわかるわ(笑)。

後藤 いやいやいやいや。

河合 で、西戸くんは裏でチャライです(笑)。

後藤 本当に裏でチャライです(笑)。

西戸 宮脇くんは不健康です。暴飲暴食とか。さっきチームメイトから聞いたのですが、「お昼がポテトチップスだった」らしいです(笑)。

宮脇 いや、ちょっとジャンキーなものが好きなのですが、お昼がポテトチップスだったのは、パンが売ってなかったから仕方なくです(笑)。

河合 昼飯なかったから、今日負けたんです(笑)。

宮脇 そう、それです!(笑)

後藤 私は、静岡の高校に通っていたので、河合くんの友達が結構同じ高校にいたんですけど、オール5で成績優秀だったと聞いています。

河合 そうなんですよ。勤勉なんです(笑)。

——では次に、尊敬する先輩はどなたですか？

後藤 ガードの伊藤さんです。私も伊藤さんも出身が同じ神奈川で、中学の頃から知っていて、慶應を選んだのも「伊藤さんがいる」ということが少なからず?、ちょっとだけあります(笑)。

西戸 寸前までゴマをするな(笑)。

後藤 私生活は見習えない方?ですけど、バスケットに対する姿勢とかプレイというのは同じポジションとして尊敬して目標とする選手の一人です。

西戸 高校つながりで洛南というのもありきたりだと思うので、私のここ最近の一押しの先輩は福元さんです。いじり甲斐があります!(笑)

河合 それ尊敬してないだろ(笑)。

西戸 いや、私が尊敬している点は、いじっても怒らないところです!(笑)

宮脇 それ馬鹿にしてるだろ?(笑)。

西戸 あの優しく包み込んでくれる暖かさを、とても尊敬しています(笑)。



西戸 良

後藤宏太

慶應義塾大学



宮脇隼人

河合祥樹

後藤 あと、あのふくらはぎ!(笑)

西戸 そうですね、ふくらはぎも力強いですし、1年生が入ってきたら私もそんな先輩になりたいです。

河合 私は何とんでも平野さんです。平野さんは高校の先輩だからというわけではなく、見ているだけですすごいインパクトがあるじゃないですか(笑)。髪型もあれば、あとベンチで一人だけ「うえいっ」ってやっているところとか(笑)。

なんかそういう、目立とうとしてないのにすごくインパクトがあるというのがいいなって。私もああいう「皆に印象を与える人」になりたいなと。まあ髪型パンチは、まだちょっと(笑)。

宮脇 やはり私も平野さん。そして木村(晃)さんを尊敬しています。あの2人がいるとチームが盛り上がるので私もそういう存在になりたいと思います。

河合 あと、主将の武津さんも付け加えといてください(笑)。

——昨年早慶戦を振り返っていかがですか？

後藤 正直、去年やる前は「ボロボロに負けるのじゃないか?」と思っていましたが、あと一步のところまで追い詰めることができたので、去年の春の私たちの状況からすると上出来かなと思いましたが、やはり最後勝てなかったのは悔しいです。

でも、その負けがあったからこそ、秋のリーグ戦で良い結果が残せたというのもあるので、去年の早慶戦は私たちにとってターニングポイントだったのかなと思っています。

西戸 終盤に逆転して、最終的に再逆転され負けましたが、観に来てくれた友達に聞くと「いい試合だったよね」って言われました。しかし、これは裏を返せば、「いい感じだったけど結局勝てなかったね。」と言われているように私には聞こえたので、今年は友達も含めて会場全体を見返せるように「今年の慶應の強さ」を見せられたらいいなと思います。特に今年は、ホームですから。

河合 私の印象は観客が多くてあがってしまって、「どんなプレイをしたか?」とかあまり試合の内容は覚えていません。そのあとのレセプションでOBの方

に「お前のお陰で勝ったよ!」って言われたときは、もうハッピーでした(笑)。今年もそう言ってもらえるように、活躍できたらなと思います。

宮脇 やる前に先輩から「早慶戦はやばい!」と言われていて、どういう意味かなと思っていましたが、観客がたくさんいて、早慶戦独特の雰囲気とかもあって、代々木体育館で試合ができて楽しかったです。他の試合と比べても1年間で一番観客が多い試合だったと思いました。そういう雰囲気の中で観てもらって気持ちよかったです(笑)。

——リーグ戦など他の試合と比べて、早慶戦は皆さんにとってどのような位置づけですか？

宮脇 絶対に負けられない試合ですね。

河合 やっぱ、慶應だけには負けてはいけないというか、私たちも1年を過ごして、早稲田愛というか母校愛もすごく強くなりました。カラオケに行ったら、「締めには校歌を歌うって!」いうようになったくらいです。(笑)。

西戸 バスケ以外の体育會の友達も全体で応援してくれるし、他の競技全体で見ると早稲田に押され負けしていると思うので、「バスケは違うぞ!」というところを絶対に見せたいです。

後藤 私らの今年の春シーズンの目標が、トーナメントとか新人戦じゃなくて「早慶戦優勝って!」いうくらいなので、それくらい絶対に負けられない戦いですね。

——ではその絶対に負けられない早慶戦の今年の意気込みをお願いします。

後藤 絶対に勝ちます!

西戸 2年目ということで、2年生から慶應の力を見せていきたいと思います。

河合 早稲田は今改革中なので、今後起こしていく革命を見せて慶應を驚かせたいです。勝たなきゃいけないですが、勝ち負けの前にまず私が活躍します!

宮脇 去年は最初の少ししか試合に出ていなかったなので、多くの時間プレイして、活躍します!絶対に負けられない試合です!

早慶

ランキング対決!



早慶ランキング対決。

選手の中で〇〇なのは誰か? という質問を両大学の選手にアンケート。大学別に、得票数に応じてランキングした。

バスケに関することから私生活に至るまで、選手の知られざる一面を垣間見ることが出来るこの企画は必見!!

1. 足が速いのは?

早

- 1位 池田慶次郎 (3年・G・社会学)
- 2位 國枝 健太 (3年・G・社会学)
- 3位 佐藤 智也 (2年・G・社会学)



池田慶次郎

シーズンの本学は、スピードと運動量で他のチームを圧倒する。そんな中、一番足が速いのは誰だ! 1位に輝いたのはこの男、池田慶次郎。動きが速すぎて試合中の彼の甘いマスクを見ることが難しいとファンが嘆いている。また、彼の運動量とスピードをバッシュが物語る。いつも一週間程度でバッシュが駄目になる。1年の時から速攻では必ず先頭を走りチームを引っ張ってきた彼が、今年は得点源として、エースとしてチームを牽引する。池田の気魄溢れるプレイに注目だ。池田に次いで2位にランクインしたのは國枝健太。とてつもない身体能力を持つ國枝、動きが速すぎてボールを置いてきてしまうのが難点であるが、スピードに乗った時の彼を止められる者はいないだろう。3位はこの“オス”、佐藤智也である。まあ彼の足が速いのは当然、猿?なのだから。野生の猿のような、というより野生の猿の躍動感溢れる曲芸...ではなくプレイに注目だ。なんと3人とも社会科学部である。社会科学部では特別な講義でも行われているのだろうか...

- 1位 真木 達 (3年・G・環境情報)
- 2位 大元 孝文 (3年・G・環境情報)
- 3位 金井 堅介 (2年・CF・環境情報)



真木 達

“俊足な選手”が揃っている本塾において1位に輝いたのは、“草駄天”の異名を持つ真木達だ。神から与えられた天性のバネは、是非コート上で体感して頂きたい。あなたが目撃するのは真木達の残像だろう...。女の子なら痺れて動けなくなってしまうこと間違いなしだ。惜しくも2位になってしまったのは、大元孝文だ。オフは一日中家でゲームをしているという彼だが、そんなことから想像もつかない程の足の速さを発揮する。その“ギャップ”に、またしても女の子は痺れてしまうだろう。3位は本塾の秘蔵っ子・金井堅介だ。そんな彼は、脚の回転数が人間の領域を超えている。「人類史上最も速いピッチ走法の使い手」である彼だが、走っている時のフォームや形相はあまり美しいとは言えない。女の子を痺れさせるのは難しいだろう。

慶

2. 筋肉マンは?

早

- 1位 永井 良佳 (3年・G・基幹)
- 2位 平野 哲朗 (4年・F・人科)
- 3位 小林裕太郎 (4年・F・スポ科)

本学で一番フィジカルの強い筋肉マンは誰だ! 昨年1位の平野を抜いて1位に輝いたのはこの男、筋肉マン永井良佳だ。昨年2位だった彼が見事1位に輝いた。努力の賜物だ! ミスター早稲田コンテストに向け々と準備が整ってきている。2位は昨年1位の本学が誇る筋肉マン平野哲郎だ。すね毛が全く生えていない美脚からは想像もつかない程の重りをつけてウェイトトレーニングに励んでいる。次いで多くの票を獲得したのはこの男、小林裕太郎だ。小林のドライブは、ダンブカーのようにディフェンスを引きずりながら進んでいく。必見だ。平野と小林の2人は187センチと、さほど大きいわけではないが、高校時代から2mを超える外国人留学生とゴール下で争い、更に大学で鍛え上げた体を武器に泥臭いプレイでチームを奮起させる。マウンテン・ゴリラのように暴れる彼らに大注目。なんと2人は寮で同部屋。彼等の〇〇号室では何か秘密の筋トレでも行われているのだろうか。



永井 良佳

慶

- 1位 中村 滉平 (4年・F・理工)
- 2位 藤井 和朗 (2年・F・経済)
- 3位 福元 直人 (3年・G・環境情報)
- 山崎 健詞 (3年・G・経済)



中村 滉平

本塾の誇る筋肉マンは次の3名である! 1位は、“本塾のウェイトリーダー”を務める中村滉平だ。「熊、出没注意!」という看板が、日吉に置かれてもおかしくない。マウスピースを剥き出しにとてつもない錘(おもり)を上げるその姿は、まるで“熊”。ウェイト後のプロテインと蜂蜜は欠かせないことから、「ブー」のあだ名も持つ。2位は、藤井和朗だ。一見筋肉がなさそうに見える彼だが、インナーマッスルには揺るぎない自信を持っている。ぶれないのだ。満員電車で急停止しても、彼だけは動かない。3位は、福元直人と山崎健詞の二人である。「福元のふくらはぎ」と「山崎の胸筋」は是非注目して頂きたい。このふたりのそれらは、努力どうこうのレベルではない。“先天的なもの”なのだ。スキニーが履けない福元。山崎に至ってはハト胸と猫背の両方を持ち合わせている。「一般人に戻った時にどうするのか?」、筆者は常に心配しているところである。

3. 面白い人は?

早

- 1位 中島 渉 (4年・F・スポ科)
- 2位 小林裕太郎 (4年・F・スポ科)
- 3位 佐藤 智也 (2年・G・社会学)

毎日笑いの絶えない我がチーム。その笑いの中心にいる面白い男は誰だ! 1位はこの男。アイドル大好き、「わたぴゅー」こと中島渉だ。ずっと「ぴゅーぴゅー」言っている本学一不思議な男。何を振っても“しょうもない”返しをしてくる。体幹トレーニングがきつい時に思わず出た「やぁ〜はいっしゅ!!!」は今年の本学の流行語(笑)。わたぴゅーの次に多く票を獲得したのは「ふんちゃん」こと小林裕太郎だ。1年の時にリュックに鳥の糞をつけて練習に来たことからそう呼ばれるようになった。あだ名の由来からして面白すぎる。とても大らかで何を言っても笑いで返すふんちゃん、良いお父さんになること間違いなし。3位は佐藤智也。モノマネがすごく上手で、ジャイアンと平泉成は鉄板。最近ではテラスハウスのような歌が上手になって来た。運動神経がいい上に面白い、モノマネも上手。どうやったらそんなに多才な猿になるのだろうか。



中島 渉

慶

- 1位 清家 智 (3年・F・経済)
- 2位 角田侑大華 (3年・学生トレーナー・商)
- 3位 田辺 夏彦 (3年・学生コーチ・経済)



清家 智

“笑いに厳しい本塾”において、最も面白いのは誰なのか! 見事1位に輝いたのは、清家智である。彼は、何故あんなにも面白いのだろうか。本当に、ただただ面白い。面白すぎる。罪深いとさえ感じる。ボケとツッコミを双方こなす万能さ、更には滑り知らずの一発ギャグをも持ち合わせる、紛れもない本塾のエースだ。2位は、学生トレーナーを務める角田侑大華だ。彼は、清家智とタッグを組むことで120%の力を発揮するが、個人能力は低い為鉄板のネタを欲している。3位は、学生コーチの田辺夏彦だ。彼は部で一番細い。そして薄い。それを使った自虐ネタは、どんなに悲しんでいる人でも笑わせてしまう。悲しんでいる人に顔の一部をあげるアンパンマンのようなものだ。そんな彼に、本塾バスケット部はいつも元気をもらっている。そして、昨年まで1位を飾っていた八島は、就職活動の影響か面白さを失いオーラがなくなってしまった。よってランキング外に終わってしまった。悔やまれる。

早

4. 知的な人は?

- 1位 根本 研 (4年・G・スポ科)
- 2位 木澤 義椰 (3年・G・人科)
- 3位 武津祐太郎 (4年・G・文構)

文武両道を志す早稲田大学バスケットボール部、その中で最も知的なのは誰だ! 見事1位に輝いたのは、やはりこの男、勉強マンこと根本研。2年連続の1位を獲得した。最上級生になった今シーズン、彼はチームの相談役的存在だ。ひとつひとつの言動に筋が通り知性が溢れている。何か困ったことがあれば根本に相談だ。次いで2位にランクインしたのはこの男、木澤義椰。まあ正直なぜ彼が2位なのかかわからない。ぱっと見は賢そうに見えるかもしれない。しかし彼は“ど天然”。飲み物を入れるピッチャーをキャッチャーと言うなど数々の天然エピソードを持っている。そんなところが愛くるしい♡本学一の愛されキャラだ。だが、なぜ知的部門で2位なのかは謎である。次いで3位。実質、木澤を抜いて2位にランクインしたのは我がキャプテン武津祐太郎だ。知的、真面目、優しい。この3つに尽きる。キャプテンとして“気持ち”でチームを引っ張る彼のプレイは今年の本学の「象徴」だ。



根本 研

- 1位 土肥 啄史 (4年・G・経済)
- 2位 平山 浩樹 (3年・副務・法律)
- 3位 金子 照 (2年・F・環境情報)



土肥 啄史

バスケットボール部の部員である前に、まずは学生であることを重要視している本塾。その中で見事1位の座を獲得したのは、4年の土肥啄史だ。選手紹介のページで是非土肥の顔を確認して頂きたい。なんと知性溢れる顔立ちであろうか。だがこれにはカラクリがある。人は、「自然とおでこから知性を感じる」ようにカスタマイズされているのだ。その中でも一番、彼のおでこから知性を感じた為、1位とさせて頂いた。勘違いしないで頂きたいのが、前髪がある人は馬鹿だと言っているわけではない。副務を務める平山浩樹が、2位だ。一つ一つの言動から滲み出る知性は、まるで「仕分け中の蓮舫」を彷彿とさせる。彼も、「どことなく意識している」に違いないだろう。日吉発渋谷方面の通勤特急「時刻表を暗記する」という、得意技も持っている。3位は金子照だ。彼は、常にやる気がないダメ人間を演じている。だが、本当は「スペックの高い能力系の間人」であるということを隠すための仮の姿なのだ。「出しゃばった人間は潰される」現代社会を生き抜く術を持つ彼を、このランキングから外すことは出来ない。

慶

早

5. カリスマ性があるのは?

- 1位 河合 祥樹 (2年・G・スポ科)
- 2位 池田慶次郎 (3年・G・社会学)
- 3位 木澤 義椰 (3年・G・人科)

カリスマ性溢れる男は誰だ! 1位は、昨シーズン1年生ながらスタメンガードとして定着した河合祥樹、次いで2位に選ばれたのは今シーズンエースとしての活躍が期待される男、池田慶次郎。3位は、1年の時からシックスマンとして安定した活躍がみられる木澤義椰。カリスマ性部門の上位を本学が誇るトップ3ガードが独占した。普段クールで多くを語らない大人しい3人だが、秘めたものは誰よりも熱い。河合はチーム一負けず嫌い。池田は口にはしないが男気の塊。誰よりもチームのためにプレイする。木澤は普段は何を考えているかわからない不思議ちゃんだが、誰よりも熱い男だ。選手からはもちろん、倉石ヘッドコーチからも信頼厚いこの3人。今シーズン本学が勝ち上がるためにはこの男達の更なる成長、活躍が必須である。彼らのカリスマ性溢れ、チームを背中で引っ張る全カプレイに注目だ。



河合 祥樹

- 1位 松村 直樹 (4年・学生コーチ・政治)
- 2位 吉川 治瑛 (4年・G・環境情報)
- 3位 後藤 宏太 (2年・G・環境情報)



松村 直樹

チームをまとめ上げるカリスマ性に優れているのは誰なのか。学生コーチとして日々チームを引っ張っている、松村直樹が1位だ。「感性が他人とずれている」ことは間違いなく、突拍子もないことを言い始めるが、その言動には一貫した考えがある。トンチンカンなことと言っているようでも、チームのことを最も考えているのだ。だからみんな、彼についていくのだろう。2位は、副将を務める吉川治瑛だ。彼も独特の感性で生きている。それは、シュートフォームにも現れている。エキセントリックなあのフォームからくり出されるシュートは、早稲田の脅威となるだろう。3位は後藤宏太だ。とくにカリスマ性があるわけではないが、「カリスマ性がありそうな外見」をしている。ただそれだけである。

慶

早

6. 服装がオシャレなのは?

- 1位 木村 晃大 (4年・F・スポ科)
- 2位 八川 修士 (3年・G・商)
- 3位 伊藤 諄哉 (2年・F・人科)

スーパーモデル集団と呼ぶ声高い早稲田大学バスケットボール部。その中で一番オシャレなのは誰だ! 1位はこの男しかいない。自他ともに認めるオシャレ番長木村晃大だ。高い身長とガタイを生かした格好はまるでファッションカタログからそのまま飛び出してきたのではないかと驚かされる。素足に革靴、あの有名な石田純一スタイルも彼がやれば木村晃大スタイルになってしまう。彼が着こなせない服装はないだろう。2位は、本学が誇るスーパーモデル“SHUJI”こと八川修士。常に流行の最先端に行くSHUJI。流行に敏感過ぎてインフルエンザやノロウイルスまでも先取りしてしまう。彼のファッションは常にみんなの憧れ!彼の所属する商学部の女性は皆「SHUJIの女」といっても過言ではない。どのブランドのどのショップに入っても挨拶をされるという伝説を持っている。AIR JORDANならぬAIR SHUJIができる日もそう遠くはない。3位は、伊藤諄也。彼の整った顔とモデルのようにすらっとした体型を生かしたオシャレな服装は、所沢キャンパスでは浮いてしまうのか?彼には友達が一人もいない。



木村 晃大

- 1位 山崎 健詞 (3年・G・経済)
- 2位 中村 滉平 (4年・F・理工)
- 3位 柴田 篤志 (3年・学連派遣・経済)



山崎 健詞

数少ない私服を着る機会に、いかに存在感を発揮するか。1位の山崎健詞は、大学生と思えない程“地味な色合い”を好む。彼には「最低限身体を保護する・寒さから逃れる」以外に、服の用途がないのではないだろうか?きっと、トータルコーディネートという概念も無いように伺える。だが、それがまたオシャレである。2位は中村滉平だ。彼の本気の私服は、誰も見たことがない。未知数の為、2位とさせて頂いた。叶うのであるならば“パリコレのランウェイ”を、是非とも彼には歩いて頂きたい。きっと彼の本気の私服は、本場の人を魅了するに違いない。3位は、学連派遣を務める柴田篤志だ。彼ほどラゴステを愛する者を、私は見たことがない。「とりあえずラゴステ!」なのだ。悪魔と永遠の命を引き替えに、「金輪際ラゴステしか着ない!」と契約を交わしたとしか思えない。そのせいか、最近あのワニのマークに顔が似てきてしまっているような気がする。

慶

早

7. 努力家は?

- 1位 永井 良佳 (3年・G・基幹)
- 2位 武津祐太郎 (4年・G・文構)
- 3位 佐藤 智也 (2年・G・社会学)

本学一の努力家は誰だ! 1位は当然この男、永井良佳だ。チームで与えられたメニューの他にもウェイトトレーニングで自主的に、誰よりも追い込んでやってきた結果があつた肉体だ。ウェイトトレーニングが終わったらドリブル練習。もはや全体練習よりも自主練習の方が多いいのではないだろうかというくらいだ。2位はキャプテン武津祐太郎。毎日練習後にドリブル練習、ストレッチは欠かさず行っている。そういうところでもチームを引っ張っているのだ。3位は佐藤智也。彼の正確なシュートは、寮飯の時限さえやり過ぎ、時間ギリギリまで体育館に残ってシューティングをするという日々の積み重ねからくるものだろう。今回選ばれたのはこの3人だが、チーム全員が勝利のため全力で努力している。小柄な今年の本学、日々の練習だけではなく、それ以外の場所でもどれだけ自分を追い込めるか。それは、ここからチームの一人一人が、どのように成長するかにかかっている。努力の成果を披露する舞台、それが試合である。今日、この伝統ある早慶戦で、毎日汗を流し努力してきた彼らの気持ち溢れる、泥臭い早稲田らしいプレイをとくとご覧あれ。



永井 良佳

- 1位 中島 一樹 (3年・G・総合政策)
- 2位 大元 孝文 (3年・G・環境情報)
- 3位 西戸 良 (2年・G・総合政策)



中島 一樹

練習ハ不可能ヲ可能ニス。この精神のもと日々努力を惜しまない本塾の部員達。その中でも特に努力家な3人を紹介しよう。1位は、中島一樹だ。「練習・ウェイト・ストレッチ」全てに全力を注ぐ彼は、この1年間で「化け物じみた身体」を手に入れてしまった。もう引き返すことは出来ない。後悔しても、もう遅いのだ。2位の大元孝文は、誰よりも早く来てシューティングをし、誰よりも負けず嫌いだ。その努力量は並大抵のものではない。無尽蔵の体力は、そういったところからきているのだろう。3位は、西戸良だ。妥協を許さない彼の練習やウェイトに臨む姿勢は、全国のバスケットをしている“ちびっ子にみせたいくらいだ。もし「辛いことがあって自分に負けそうな時」は、是非西戸と共にバスケットに励んでほしい。

慶